

講義コード	U360100101	科目ナンバリング	036A101
講義名	○基礎演習 I A		
英文科目名	Practical works on the basic French language, I		
担当者名	鈴木 雅生		
単位	4	配当年次	学部 1年
時間割	通年 火曜日 2時限 西1-308.通年 木曜日 2時限 西1-308		

授業概要

週2回、1年間でフランス語の基礎を学ぶ。

到達目標

フランス語読解のための文法を習得し、基本的なフランス語のテキストを読むことができるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	ガイダンス、文字と発音
第2回	Leçon 1 (1): 名詞の性・数、冠詞、形容詞、提示表現
第3回	Leçon 1 (2): 人称代名詞1、第一群規則動詞、否定文1
第4回	Leçon 2 (1): être、avoir、否定文2
第5回	Leçon 2 (2): 疑問文、指示形容詞、所有形容詞
第6回	Leçon 3 (1): 第二群規則動詞、縮約、aller、venir
第7回	Leçon 3 (2): 近接未来、近接過去、疑問代名詞1、疑問形容詞、疑問副詞
第8回	Leçon 4 (1): 形容詞・名詞の複数形・女性形、形容詞の位置
第9回	Leçon 4 (2): 比較級・最上級、人称代名詞強勢形
第10回	Leçon 5 (1): 複合過去、関係代名詞1
第11回	Leçon 5 (2): 強調構文、受動態、命令法
第12回	Leçon 6 (1): 人称代名詞の目的補語
第13回	Leçon 6 (2): 準助動詞、指示代名詞、所有代名詞
第14回	Leçon 7 (1): 代名動詞
第15回	Leçon 7 (2): 中性代名詞
第16回	Leçon 8 (1): 半過去、大過去、時制の一致1
第17回	Leçon 8 (2): 疑問代名詞2、関係代名詞2
第18回	Leçon 9 (1): 単純未来、前未来
第19回	Leçon 9 (2): 非人称構文、不定代名詞・不定形容詞
第20回	Leçon 10 (1): 条件法現在、条件法過去、時制の一致2
第21回	Leçon 10 (2): 知覚動詞、放任動詞、使役動詞
第22回	Leçon 11 (1): 直接話法と間接話法
第23回	Leçon 11 (2): 現在分詞、ジェロンディフ、感嘆文
第24回	Leçon 12 (1): 接続法現在、接続法過去
第25回	Leçon 12 (2): 接続法の用法
第26回	補遺: 単純過去、前過去、接続法半過去、接続法大過去、条件法過去第2形

授業計画コメント

授業計画はあくまで予定であり、授業の進捗によって変更する可能性があることは言うまでもない。

授業方法

講義および問題演習

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

授業前には指示した個所の問題をやっておくこと。授業後は、その日に学んだ文法事項、単語、表現などを復習し、疑問点があれば次回の授業で質問すること。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	30%	

学期末試験(第1学期)

学年末試験(第2学期)	50 %	
中間テスト	10 %	
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	10 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

上記の割合はあくまで目安である。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

テストの答えは返却し、授業内で解説を行う。

授業計画コメント

授業計画はあくまで予定であり、授業の進捗によって変更する可能性があることは言うまでもない。

授業方法

講義および問題演習

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

授業前には指示した個所の問題をやっておくこと。授業後は、その日に学んだ文法事項、単語、表現などを復習し、疑問点があれば次回の授業で質問すること。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	30 %	
学年末試験(第2学期)	50 %	
中間テスト	10 %	
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	10 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

上記の割合はあくまで目安である。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

テストの答えは返却し、授業内で解説を行う。

教科書

グラメール・フランセーズ,学習院フランス語教育研究会,朝日出版社,2018,978-4-255-36280-0

フランス語動詞60ー活用・用法・索引ー,久保田剛史、高橋信良、井上櫻子,朝日出版社,2015, 978-4-255-35252-7

参考文献コメント

辞書、参考書など、教室で指示する。

履修上の注意

履修者数制限あり。

第1回目の授業に必ず出席のこと。

その他

予習・復習を欠かさないこと。

講義コード	U360100102	科目ナンバリング	036A101
講義名	○基礎演習 I B		
英文科目名	Practical works on the basic French language, I		
担当者名	田上 竜也		
単位	4	配当年次	学部 1年
時間割	通年 火曜日 2時限 西2-403.通年 木曜日 2時限 西2-403		

授業概要

週2回、1年間でフランス語の発音と基礎文法を学ぶ。

到達目標

フランス語の基礎文法をひとつおろし学び、辞書を使って簡単なテキストが読解できる力を身に着ける。

授業内容

実施回	内容
第1回	全般的説明。アルファベ。発音の基礎。
第2回	発音の基礎続き。
第3回	教科書に沿った説明。練習問題。
第4回	〃
第5回	〃
第6回	〃
第7回	〃
第8回	〃
第9回	〃
第10回	〃
第11回	〃
第12回	〃
第13回	前期のまとめ。前期試験。
第14回	教科書に沿った説明。練習問題。
第15回	〃
第16回	〃
第17回	〃
第18回	〃
第19回	〃
第20回	〃
第21回	〃
第22回	〃
第23回	〃
第24回	〃
第25回	〃
第26回	年間のまとめ。後期試験。

授業計画コメント

授業進度は、学習者の理解度にあわせて調節する

授業方法

原則対面による演習、場合によりZoom使用

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

事前に当該箇所を読み、下調べをすること。また必ず復習もすること。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	25 %	
学年末試験(第2学期)	25 %	

学年末試験(第2学期)	%	
中間テスト	0	%
レポート	0	%
小テスト	25	%
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	25	%
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

平常点(クラス参加、グループ作業の成果等):25%(聴講態度重視) 第2学期(学年末試験):25%(試験の成績による) 第1学期(学期末試験):25%(試験の成績による) 真摯に学習することはもちろんであるが、さらに聴講態度も重視する。居眠り、私語、飲食(ガム、飴含む)、無断退出、メールなどは減点対象となり、はなほだしい場合には単位取得不可とみなす場合もある。小テスト:25%(動詞活用や単語などについて随時行う)

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

第1学期末試験および小テストは返却する。第2学期末試験は返却しないが、成績に疑問があれば質問に答える。

教科書

グラメール・フランセーズ,学習院フランス語教育研究会,朝日出版社,2018,978-4-255-36280-0

フランス語動詞60ー活用・用法・索引一,久保田剛史、高橋信良、井上櫻子,朝日出版社,2015,978-4-255-35252-7 C1085

教科書コメント

学習院大学文学部フランス語圏文化学科作成の教科書。授業開始前に指定する。

参考文献コメント

辞書など、教室で指示する。

履修上の注意

履修者数制限あり。

第1回目の授業に必ず出席のこと。

その他

履修態度も平常点に含む。授業中の飲食(ガム、飴など)、携帯電話、スマートフォン利用、居眠り、私語、途中退出(必要な場合には申告すること)は大きな減点対象となるので注意すること。

講義コード	U360100103	科目ナンバリング	036A101
講義名	○基礎演習 I C		
英文科目名	Practical works on the basic French language, I		
担当者名	大野 麻奈子		
単位	4	配当年次	学部 1年
時間割	通年 火曜日 2時限 中央-405.通年 木曜日 2時限 中央-405		

授業概要

1年間でフランス語初級文法を一通り学ぶ。

到達目標

第1学期は、まずフランス語特有の文法(特に動詞の活用)と発音に慣れること。

1年間の目標としては、辞書を使えばある程度の長文も読解できるようになること。フランス語の綴りと発音の関係を理解し、初見の文章でも音読できるようになること。

授業内容

実施回	内容
第1回	オリエンテーション、字母、教科書第1課
第2回	教科書第1課続き
第3回	教科書第2課
第4回	教科書第2課続き
第5回	教科書第3課
第6回	教科書第3課続き
第7回	教科書第4課
第8回	教科書第4課続き
第9回	教科書第5課
第10回	教科書第5課続き
第11回	教科書第6課
第12回	教科書第6課続き
第13回	授業の振り返り
第14回	教科書第7課
第15回	教科書第7課続き
第16回	教科書第8課
第17回	教科書第8課続き
第18回	教科書第9課
第19回	教科書第9課続き
第20回	教科書第10課
第21回	教科書第11課
第22回	教科書第12課
第23回	教科書第12課続き
第24回	教科書補遺
第25回	教科書補遺続き
第26回	一年の振り返り

授業計画コメント

授業内容・進捗については修正・変更を加えていく可能性あり。

授業方法

文法事項などを教員が説明したあと、練習問題を受講者が解く。練習問題のほか、例文なども受講者に音読してもらう。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

文法事項の説明のあとすぐに練習問題にとりかかることもあるので、練習問題は予習しておくこと。また、知識を定着させるためには毎回の授業後に復習をすること。予習復習には教科書添付の音声資料を使用する。疑問点・不明点などがある場合は授業時に質問をすること。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	40 %	
学年末試験(第2学期)	50 %	
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	10 %	小テスト、課題提出の評価も含まれる。
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

上記の数字はあくまでも目安だが、学年末試験は一年間の総まとめであるため、評価の比重は重い。また、学期末試験、学年末試験共に、筆記試験とは別に対面または音声ファイル提出の形式で音読試験も行う。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

小テスト、課題、および第一学期末テストの返却時には授業内で解説をする。

教科書

グラメール・フランセーズ,学習院フランス語教育研究会,朝日出版社,2018,978-4-255-36280-0

フランス語動詞60-活用・用法・索引-,久保田剛史、高橋信良、井上櫻子,朝日出版社,978-4-255-35252-7

参考文献コメント

辞書については、紙媒体の辞書を勧める。教科書についてもデジタル化せずに紙媒体のままでの使用、紙媒体でノートをとることを勧める。

履修上の注意

履修者数制限あり。第1回目の授業に必ず出席のこと。

その他

新しい言語を学ぶには、反復練習と暗記は欠かせない。教科書添付の音声資料を最大限に活用して予習復習をすること。

講義コード	U360101101	科目ナンバリング	036A102
講義名	○基礎演習ⅡA		
副題	フランス語読解とフランス語実践文法演習		
英文科目名	Practical works on the basic French language, II		
担当者名	中条 省平.鈴木 重周		
単位	4	配当年次	学部 2年
時間割	通年 月曜日 2時限 西2-403.通年 水曜日 1時限 西1-314		

授業概要

すでにフランス語の初級文法と仏文読解の基礎を習得し終えた学生に(基本的に2年生向け)、より高度な仏文読解のテクニックを教え、同時に獲得した文法知識を確かなものとして活用できるようにする。

また、仏文読解の授業(中条担当)において、4年次での卒論執筆の準備となるような小論文執筆のための演習をおこなう。

到達目標

フランス語の基本構造を理解すると同時に、単語の語彙を基本2000語程度に拡げ、フランス語圏における生活と文化の基礎知識を獲得し、平易な文献を辞書を用いつつ自力で読解できるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	概要説明:毎週1回は、仏文読解の演習(中条担当)を行い、毎週もう1つの回では、フランス語の実践的文法演習(鈴木担当)を行う。
第2回	テキスト読解、フランス語実践演習(1)
第3回	〃(2)
第4回	〃(3)
第5回	〃(4)
第6回	〃(5)
第7回	〃(6)
第8回	〃(7)
第9回	〃(8)
第10回	〃(9)
第11回	〃(10)
第12回	まとめ
第13回	理解度確認
第14回	テキスト読解、フランス語実践演習(11)
第15回	〃(12)
第16回	〃(13)
第17回	〃(14)
第18回	〃(15)
第19回	〃(16)
第20回	〃(17)
第21回	〃(18)
第22回	〃(19)
第23回	〃(20)
第24回	〃(21)
第25回	まとめ
第26回	理解度確認

授業計画コメント

基本的に対面授業で行う。

授業方法

演習形式で行う。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

事前に辞書を丹念に引きながら教科書の該当箇所を読んだうえで、練習問題などを行うこと(約1時間)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	40 %	
学年末試験(第2学期)	40 %	
中間テスト		
レポート		
小テスト	10 %	
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	10 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

平常点(クラス参加、グループ作業の成果等):10%、第1学期末試験:40%、第2学期末試験:40%、小テスト:10%。
上記はあくまでも目安であり、学期末試験以外の20%は、出席、小テストの結果、授業参加への積極性などを考慮して総合的に採点する。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

教室で直接説明する。

教科書

マエストロ2 実践フランス語中級,朝日出版社,9784255353203

教科書コメント

授業時に指示する。
『マエストロ2』は水1の鈴木クラスで使用します。

参考文献コメント

必要に応じて授業中に教示する。

履修上の注意

履修者数制限あり。
第1回目の授業に必ず出席のこと。

講義コード	U360101102	科目ナンバリング	036A102
講義名	○基礎演習ⅡB		
副題	フランス語読解とフランス語実践文法演習		
英文科目名	Practical works on the basic French language, II		
担当者名	志々見 剛, 川口 覚子		
単位	4	配当年次	学部 2年
時間割	通年 火曜日 5時限 南1-106. 通年 金曜日 1時限 南1-106		

授業概要

すでにフランス語の初級文法と仏文読解の基礎を習得し終えた学生を対象に(基本的に2年生向け)、獲得した文法知識を確かなものにするとともに、より高度な読解への導入を行います。
読解クラスでは、口頭での発表や、4年次に卒業論文を執筆する準備となるような日本語の文章表現、論文・レポートの書き方に関する演習も行います。

到達目標

フランス語の基本構造を理解すると同時に、単語の語彙を基本2000語程度に拡げ、フランス語圏における生活と文化の基礎知識を獲得し、平易な文献を辞書を用いつつ自力で読解できるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	イントロダクション
第2回	テキスト読解、フランス語実践演習
第3回	テキスト読解、フランス語実践演習
第4回	テキスト読解、フランス語実践演習
第5回	テキスト読解、フランス語実践演習
第6回	テキスト読解、フランス語実践演習
第7回	テキスト読解、フランス語実践演習
第8回	テキスト読解、フランス語実践演習
第9回	テキスト読解、フランス語実践演習
第10回	テキスト読解、フランス語実践演習
第11回	テキスト読解、フランス語実践演習
第12回	テキスト読解、フランス語実践演習
第13回	テキスト読解、フランス語実践演習
第14回	テキスト読解、フランス語実践演習
第15回	テキスト読解、フランス語実践演習
第16回	テキスト読解、フランス語実践演習
第17回	テキスト読解、フランス語実践演習
第18回	テキスト読解、フランス語実践演習
第19回	テキスト読解、フランス語実践演習
第20回	テキスト読解、フランス語実践演習
第21回	テキスト読解、フランス語実践演習
第22回	テキスト読解、フランス語実践演習
第23回	テキスト読解、フランス語実践演習
第24回	テキスト読解、フランス語実践演習
第25回	テキスト読解、フランス語実践演習
第26回	テキスト読解、フランス語実践演習

授業計画コメント

毎週1回は、仏文読解の演習を行い、毎週もう1つの回では、フランス語の実践的文法演習を行います。

授業方法

対面授業(演習)

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

事前に辞書を丹念に引いて授業準備を行うこと(約1時間)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	30 %	
学年末試験(第2学期)	30 %	
中間テスト		
レポート		
小テスト	10 %	
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	30 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

上記の割合はあくまで目安であり、授業の状況に応じて変更することがあります。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

教室で直接説明します。

教科書コメント

授業時に指示します。

履修上の注意

履修者数制限あり。
第1回目の授業に必ず出席のこと。

その他

授業内で指示します。

講義コード	U360101103	科目ナンバリング	036A102
講義名	○基礎演習ⅡC		
英文科目名	Practical works on the basic French language, II		
担当者名	内藤 真奈.土橋 友梨子		
単位	4	配当年次	学部 2年
時間割	通年 火曜日 1時限 北1-302.通年 木曜日 5時限 北1-302		

授業概要

すでにフランス語の初級文法と仏文読解の基礎を習得し終えた学生に(基本的に2年生向け)、より高度な仏文読解のテクニックを教え、同時に獲得した文法知識を確かなものとして活用できるようにする。

到達目標

フランス語の基本構造を理解すると同時に、単語の語彙を基本2000語程度に拡げ、フランス語圏における生活と文化の基礎知識を獲得し、平易な文献を辞書を用いつつ自力で読解できるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	概要説明:毎週1回は、仏文読解の演習を行い、毎週もう1つの回では、中級文法の演習を行う。
第2回	テキスト読解、文法演習(1)
第3回	テキスト読解、文法演習(2)
第4回	テキスト読解、文法演習(3)
第5回	テキスト読解、文法演習(4)
第6回	テキスト読解、文法演習(5)
第7回	テキスト読解、文法演習(6)
第8回	テキスト読解、文法演習(7)
第9回	テキスト読解、文法演習(8)
第10回	テキスト読解、文法演習(9)
第11回	テキスト読解、文法演習(10)
第12回	テキスト読解、文法演習(11)
第13回	理解度の確認
第14回	前期の振り返り
第15回	テキスト読解、文法演習(12)
第16回	テキスト読解、文法演習(13)
第17回	テキスト読解、文法演習(14)
第18回	テキスト読解、文法演習(15)
第19回	テキスト読解、文法演習(16)
第20回	テキスト読解、文法演習(17)
第21回	テキスト読解、文法演習(18)
第22回	テキスト読解、文法演習(19)
第23回	テキスト読解、文法演習(20)
第24回	テキスト読解、文法演習(21)
第25回	テキスト読解、文法演習(22)
第26回	理解度の確認

授業計画コメント

上記の内容に加え、読解の授業においては4年次での卒論執筆の準備となるようなレポートの書き方についての演習も行う。

授業方法

演習形式

文法事項の説明、練習問題の解説、仏文和訳の読解と解説を行う。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

事前に辞書を丹念に引きながら教科書の該当箇所を読んだうえで発表の準備をし、練習問題などを行うこと(約1時間)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	25 %	
学年末試験(第2学期)	25 %	
中間テスト		
レポート	30 %	
小テスト	10 %	
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	10 %	小テスト、訳読の出来具合による
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

学期末試験・レポート以外の20%は、出席、小テストの結果などを考慮して総合的に採点する。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

試験やレポートは実施後に採点、コメントをつけて返却する。

教科書

ズーム！2 一中級編一,慶應義塾大学法学部フランス語部会,駿河台出版社,2022,9784411011350

教科書コメント

授業時に指示・配布(内藤)
上記教科書使用(土橋)

参考文献コメント

授業時に指示

履修上の注意

履修者数制限あり。
第1回目の授業に必ず出席のこと。

講義コード	U360102101	科目ナンバリング	036A103
講義名	フランス語演習A		
副題	Traduire en français		
英文科目名	Seminar in the French language		
担当者名	MARE, Thierry		
単位	4	配当年次	学部 3年～4年
時間割	通年 水曜日 3時限 西1-208		

授業概要

Ce cours, entièrement dispensé en français, sera consacré au thème, c'est-à-dire à la traduction d'un morceau de littérature japonaise, extrait de roman ou récit que j'aurai choisi et distribuerai aux étudiants au début de l'année.

到達目標

Il s'agira donc de mettre en pratique les acquis des années précédentes en produisant une traduction française correcte et, si possible, élégante d'un texte japonais donné.

授業内容

実施回	内容
第1回	A chaque séance, une dizaine de lignes de japonais seront données à traduire en français.
第2回	Les étudiants ont jusqu'à présent rarement eu l'occasion de travailler sur des textes suivis et ont souvent tendance à opérer phrase par phrase.
第3回	Ce cours est destiné à leur donner l'habitude d'un effort continu dans l'expression en langue française.
第4回	Il en sera ainsi pour toutes les séances jusqu'à la fin de l'année.
第5回	Etc.
第6回	Etc.
第7回	Etc.
第8回	Etc.
第9回	Etc.
第10回	Etc.
第11回	Etc.
第12回	Etc.
第13回	Etc.
第14回	Etc.
第15回	Etc.
第16回	Etc.
第17回	Etc.
第18回	Etc.
第19回	Etc.
第20回	Etc.
第21回	Etc.
第22回	Etc.
第23回	Etc.
第24回	Etc.
第25回	Etc.
第26回	Etc.

授業計画コメント

A l'occasion de ces travaux, je me livrerai à un certain nombre de mises au point grammaticales, lexicales ou stylistiques destinées à faciliter (peut-être !) le travail des élèves.

授業方法

J'interrogerai les étudiants un par un au cours de l'année (au moins deux fois par semestre) et les prierai de venir écrire au tableau la traduction qu'ils proposent d'une phrase donnée.

使用言語

日本語・英語以外

準備学習(予習・復習)

A chaque cours, les étudiants seront tenus d'apporter une préparation écrite. Il m'arrivera de ramasser certains de ces travaux,

que je rendrai dûment corrigés au début de la séance suivante. Par ailleurs certains étudiants seront priés de venir au tableau écrire leur proposition de traduction personnelle, que je commenterai et amenderai, si nécessaire, avant d'indiquer ma propre traduction. Une fois rentrés chez eux, les étudiants devront revoir leurs notes de cours et en vérifier chaque transcription dans un dictionnaire ou un manuel de grammaire, jusqu'à ce qu'ils soient sûrs d'avoir tout compris (ou d'avoir des questions à poser).

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分 (%)	備考
学期末試験(第1学期)	30 %	
学年末試験(第2学期)	60 %	
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	10 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

平常点(クラス参加、グループ作業の成果等):10% 第2学期(学年末試験):60% 第1学期(学期末試験):30%

Ces pourcentages n'ont, bien sûr, aucun sens. Il s'agira de mesurer sur toute l'année le travail et les progrès des étudiants.

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

Il va de soi que les examens seront rendus accompagnés de commentaires et d'un corrigé expliqué en classe.

履修上の注意

履修者数制限あり。

第1回目の授業に必ず出席のこと。

講義コード	U360102102	科目ナンバリング	036A103
講義名	フランス語演習B		
副題	Traduire en français		
英文科目名	Seminar in the French language		
担当者名	MARE, Thierry		
単位	4	配当年次	学部 3年～4年
時間割	通年 木曜日 5時限 西1-204		

授業概要

Ce cours, entièrement dispensé en français, sera consacré au thème, c'est-à-dire à la traduction d'un morceau de littérature japonaise, extrait de roman ou récit que j'aurai choisi et distribuerai aux étudiants au début de l'année.

到達目標

Il s'agira donc de mettre en pratique les acquis des années précédentes en produisant une traduction française correcte et, si possible, élégante d'un texte japonais donné.

授業内容

実施回	内容
第1回	A chaque séance, une dizaine de lignes de japonais seront données à traduire en français.
第2回	Les étudiants ont jusqu'à présent rarement eu l'occasion de travailler sur des textes suivis et ont souvent tendance à opérer phrase par phrase.
第3回	Ce cours est destiné à leur donner l'habitude d'un effort continu dans l'expression en langue française.
第4回	Il en sera ainsi pour toutes les séances jusqu'à la fin de l'année.
第5回	Etc.
第6回	Etc.
第7回	Etc.
第8回	Etc.
第9回	Etc.
第10回	Etc.
第11回	Etc.
第12回	Etc.
第13回	Etc.
第14回	Etc.
第15回	Etc.
第16回	Etc.
第17回	Etc.
第18回	Etc.
第19回	Etc.
第20回	Etc.
第21回	Etc.
第22回	Etc.
第23回	Etc.
第24回	Etc.
第25回	Etc.
第26回	Etc.

授業計画コメント

A l'occasion de ces travaux, je me livrerai à un certain nombre de mises au point grammaticales, lexicales ou stylistiques destinées à faciliter (peut-être !) le travail des élèves.

授業方法

J'interrogerai les étudiants un par un au cours de l'année (au moins deux fois par semestre) et les prierai de venir écrire au tableau la traduction qu'ils proposent d'une phrase donnée.

使用言語

日本語・英語以外

準備学習(予習・復習)

A chaque cours, les étudiants seront tenus d'apporter une préparation écrite. Il m'arrivera de ramasser certains de ces travaux,

que je rendrai dûment corrigés au début de la séance suivante. Par ailleurs certains étudiants seront priés de venir au tableau écrire leur proposition de traduction personnelle, que je commenterai et amenderai, si nécessaire, avant d'indiquer ma propre traduction. Une fois rentrés chez eux, les étudiants devront revoir leurs notes de cours et en vérifier chaque transcription dans un dictionnaire ou un manuel de grammaire, jusqu'à ce qu'ils soient sûrs d'avoir tout compris (ou d'avoir des questions à poser).

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分 (%)	備考
学期末試験(第1学期)	30 %	
学年末試験(第2学期)	60 %	
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	10 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

平常点(クラス参加、グループ作業の成果等):10% 第2学期(学年末試験):60% 第1学期(学期末試験):30%

Ces pourcentages n'ont, bien sûr, aucun sens. Il s'agira de mesurer sur toute l'année le travail et les progrès des étudiants.

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

Il va de soi que les examens seront rendus accompagnés de commentaires et d'un corrigé expliqué en classe.

履修上の注意

履修者数制限あり。

第1回目の授業に必ず出席のこと。

講義コード	U360102103	科目ナンバリング	036A103
講義名	フランス語演習C		
英文科目名	Seminar in the French language		
担当者名	BIZET, Francois Henri		
単位	4	配当年次	学部 3年～4年
時間割	通年 水曜日 3時限 西1-107		

授業概要

Apprendre à écrire un récit

到達目標

Ce cours doit permettre aux étudiants :

- 1) d'améliorer leurs compétences en français écrit
- 2) de réussir à écrire un récit (au passé)
- 3) de réussir à écrire un commentaire
- 4) d'élargir leur culture cinématographique

授業内容

実施回	内容
第1回	Introduction générale
第2回	Biographie de Georges Perec (1)
第3回	Biographie de Georges Perec (2)
第4回	Biographie de Picasso
第5回	Biographie de Rodin
第6回	Correction du devoir (biographie d'un artiste japonais)
第7回	Test: écrire une biographie à partir d'une chronologie
第8回	Le Ballon rouge, discussion sur le film
第9回	Rédaction d'un récit à partir des images du film (1)
第10回	Rédaction d'un récit à partir des images du film (2)
第11回	Rédaction d'un récit à partir des images du film (3)
第12回	Devoir de fin de semestre
第13回	Correction du devoir
第14回	La rue Denoyer, analyse d'une image
第15回	Lecture du dialogue. Imparfait (autrefois) et présent (aujourd'hui)
第16回	Exercices sur les temps
第17回	Lecture du texte sur le 104
第18回	Travail collectif sur les lieux industriels transformés en centres de culture (1)
第19回	Travail collectif sur les lieux industriels transformés en centres de culture (2)
第20回	Travail collectif sur les lieux industriels transformés en centres de culture (3)
第21回	Intermède
第22回	Correction du devoir
第23回	Travail collectif sur Inujima (2)
第24回	Travail collectif sur Inujima (2)
第25回	Travail collectif sur Inujima (3)
第26回	Correction du devoir

授業計画コメント

NON

授業方法

Les cours auront lieu en présence, et exclusivement en français. Une participation active des étudiants est demandée.

使用言語

日本語・英語以外

準備学習(予習・復習)

Les textes seront fournis à l'avance et devront être préparés, à la demande, pour le cours suivant.

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	30 %	
学年末試験(第2学期)	30 %	
中間テスト		
レポート	30 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	10 %	
その他(備考欄を参照)		

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

Les productions des étudiants seront corrigées et commentées individuellement et feront l'objet d'une reprise pendant le cours.

履修上の注意

履修者数制限あり。
第1回目の授業に必ず出席のこと。

その他

NON

講義コード	U360103101	科目ナンバリング	036A800
講義名	ゼミナールA		
副題	ジャン・コクトー研究		
英文科目名	Seminar		
担当者名	鈴木 雅生		
単位	4	配当年次	学部 3年～4年
時間割	通年 金曜日 3時限 北1-306		

授業概要

ジャン・コクトーの代表作のひとつ、姉弟の異常ともいえる愛情と、思春期の少年少女の残酷な行動がもたらす悲劇を幻想的に描いた『恐るべき子供たち』(1929)を読む。発表とディスカッションを中心に進めるため、積極的な参加が求められる。

到達目標

フランス語の高度なテキストを読み、その内容を文化的歴史的背景を含めて理解するとともに、自らの言葉で解釈・分析できるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	ガイダンス
第2回	学生による発表、ディスカッション、教師による解説(1)
第3回	学生による発表、ディスカッション、教師による解説(2)
第4回	学生による発表、ディスカッション、教師による解説(3)
第5回	学生による発表、ディスカッション、教師による解説(4)
第6回	学生による発表、ディスカッション、教師による解説(5)
第7回	学生による発表、ディスカッション、教師による解説(6)
第8回	学生による発表、ディスカッション、教師による解説(7)
第9回	学生による発表、ディスカッション、教師による解説(8)
第10回	学生による発表、ディスカッション、教師による解説(9)
第11回	学生による発表、ディスカッション、教師による解説(10)
第12回	学生による発表、ディスカッション、教師による解説(11)
第13回	前期のまとめ
第14回	後期ガイダンス
第15回	学生による発表、ディスカッション、教師による解説(12)
第16回	学生による発表、ディスカッション、教師による解説(13)
第17回	学生による発表、ディスカッション、教師による解説(14)
第18回	学生による発表、ディスカッション、教師による解説(15)
第19回	学生による発表、ディスカッション、教師による解説(16)
第20回	学生による発表、ディスカッション、教師による解説(17)
第21回	学生による発表、ディスカッション、教師による解説(18)
第22回	学生による発表、ディスカッション、教師による解説(19)
第23回	学生による発表、ディスカッション、教師による解説(20)
第24回	学生による発表、ディスカッション、教師による解説(21)
第25回	学生による発表、ディスカッション、教師による解説(22)
第26回	まとめ

授業計画コメント

詳しい授業計画は初回授業時に配布する。

授業方法

演習

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

授業で扱う範囲を読んだうえ、疑問点、気になった点、興味深い点などをあらかじめMoodleで提出すること。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	60 %	夏期レポートおよび学年末レポート
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	40 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

上記の割合はあくまで目安である。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

提出されたレポートについては、コメントを付与のうえ返却する。

教科書

Les Enfants terribles, Jean Cocteau, Le Livre de poche, 978-2253010258

参考文献

恐るべき子供たち: 光文社古典新訳文庫, ジャン・コクトー, 光文社, 2007, 978-4334751227

履修上の注意

履修者数制限あり。

第1回目の授業に必ず出席のこと。

講義コード	U360103102	科目ナンバリング	036A800
講義名	ゼミナールB		
副題	文学と建築		
英文科目名	Seminar		
担当者名	田上 竜也		
単位	4	配当年次	学部 3年～4年
時間割	通年 月曜日 4時限 西2-204		

授業概要

文学や諸芸術と建築とのかかわりを、さまざまなテキストを題材に考察します。

到達目標

作家、作品について理解を深めるとともに、文学や建築についての教養を深めます。

授業内容

実施回	内容
第1回	概要説明
第2回	ゼミナールの主題についての講義
第3回	ゼミナールの主題についての講義
第4回	ゼミナールの主題についての講義
第5回	プレゼンテーションの方法指導
第6回	図書館ガイダンス
第7回	学生発表
第8回	学生発表
第9回	学生発表
第10回	学生発表
第11回	学生発表
第12回	学生発表
第13回	前期のまとめ
第14回	レポートの書き方指導
第15回	学生発表
第16回	学生発表
第17回	学生発表
第18回	学生発表
第19回	学生発表
第20回	学生発表
第21回	学生発表
第22回	学生発表
第23回	学生発表
第24回	美術館訪問
第25回	学生発表
第26回	年間のまとめ

授業計画コメント

テキストは随時コピー配布します。初回の授業で、学生のみなさんと相談のうえ、いくつかの候補から決定します。

授業方法

原則対面によるが、場合によりZoom使用

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

特に担当箇所は十分準備すること(約2、3時間)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	0 %	

学期末試験(第1学期)

学年末試験(第2学期)	0 %	
中間テスト	0 %	
レポート	50 %	プレゼンテーションおよび配布資料作成
小テスト	0 %	
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	
その他(備考欄を参照)	0 %	

成績評価コメント

平常点(クラス参加、グループ作業の成果等):50%(出席、訳読、聴講態度) 聴講態度重視。居眠り、私語、飲食(ガム、飴含む)、無断退出、メールなどは減点対象となります。レポート:50%(授業内発表のレジュメ)

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

発表についてその都度コメントにより評価する。

教科書コメント

コピー配布。

履修上の注意

履修者数制限あり。 / 第1回目の授業に必ず出席のこと。

講義コード	U360103103	科目ナンバリング	036A800
講義名	ゼミナールC		
副題	フランス映画史研究		
英文科目名	Seminar		
担当者名	中条 省平		
単位	4	配当年次	学部 3年～4年
時間割	通年 木曜日 1時限 西1-109		

授業概要

トニー以降の映画史の名せりふを集めた『映画の最も名高い台詞の歴史』(ヴィダル&グラセール共編)を題材にして、エスプリにみちたフランス語を読み解く方法を学び、同時に、映画の歴史および20世紀フランスの社会状況や思想について研究する。

到達目標

映画の見方を理解し、フランス映画史の概略およびフランス文化史の基礎を把握し、批評および口語に用いられるフランス語の読み方を上達させられるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	映画作家の紹介および作品の内容概説
第2回	アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表と、教師のコメント・解説(1)
第3回	〃 (2)
第4回	〃 (3)
第5回	〃 (4)
第6回	〃 (5)
第7回	〃 (6)
第8回	〃 (7)
第9回	〃 (8)
第10回	〃 (9)
第11回	〃 (10)
第12回	まとめ
第13回	到達度確認
第14回	アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表と、教師のコメント・解説(11)
第15回	〃 (12)
第16回	〃 (13)
第17回	〃 (14)
第18回	〃 (15)
第19回	〃 (16)
第20回	〃 (17)
第21回	〃 (18)
第22回	〃 (19)
第23回	〃 (20)
第24回	〃 (21)
第25回	まとめ
第26回	到達度確認

授業計画コメント

基本的に対面授業で行う。

授業方法

演習形式による。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

徹底的に辞書を引きながら、また、未知の事項を百科事典、映画事典など適切な事典類を用いて調べながら、原書テキストの5ページほどを読んでおくこと(1時間半)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)	70 %	
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	30 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

平常点(クラス参加、訳読、グループ作業の成果等):30%、学年末試験:70%。
 上記は目安であり、参加者の授業参加への真摯さを考慮して、総合的に判断する。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

教室で直接説明する。

教科書コメント

詳細は第1回目の授業で指示する。

参考文献コメント

Vidal&Glasser : Histoire des plus célèbres répliques du cinéma (Ramsay)

履修上の注意

履修者数制限あり。
 第1回目の授業に必ず出席のこと。

講義コード	U360103104	科目ナンバリング	036A800
講義名	ゼミナールD		
副題	翻訳者への第一歩		
英文科目名	Seminar		
担当者名	堀内 ゆかり		
単位	4	配当年次	学部 3年～4年
時間割	通年 月曜日 3時限 西2-405		

授業概要

フランス語の文章をよく読み、意味を正確に理解したうえで、もとの文章の雰囲気を保つ日本語にするトレーニングをします。原文のリズムを感じるためには音読、原文を正確に読むにはフランス語力も不可欠です。自分の興味に応じたテーマに関する発表も予定しています。

今年度は Jean de Brunhoff による<ぞうのババール>シリーズの5作目『ババールのこどもたち』(初版1937年)を読みます。

到達目標

「自分で考える」とは？ 翻訳や発表を通じて「自分で考える」ことを体得する。

授業内容

実施回	内容
-----	----

第1回	Introduction 筆記体の読み方
第2回	音読、読解、翻訳の検討
第3回	音読、読解、翻訳の検討
第4回	音読、読解、翻訳の検討
第5回	音読、読解、翻訳の検討
第6回	音読、読解、翻訳の検討
第7回	音読、読解、翻訳の検討
第8回	音読、読解、翻訳の検討
第9回	音読、読解、翻訳の検討
第10回	音読、読解、翻訳の検討
第11回	音読、読解、翻訳の検討
第12回	音読、読解、翻訳の検討
第13回	第1学期まとめ
第14回	音読、読解、翻訳の検討
第15回	音読、読解、翻訳の検討
第16回	音読、読解、翻訳の検討
第17回	音読、読解、翻訳の検討
第18回	音読、読解、翻訳の検討
第19回	音読、読解、翻訳の検討
第20回	音読、読解、翻訳の検討
第21回	音読、読解、翻訳の検討
第22回	音読、読解、翻訳の検討
第23回	音読、読解、翻訳の検討
第24回	音読、読解、翻訳の検討
第25回	音読、読解、翻訳の検討
第26回	第2学期まとめ

授業方法

演習形式。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

翻訳(1時間以上)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	10 %	
学年末試験(第2学期)	10 %	
中間テスト		
レポート	40 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	40 %	参加度で評価します
その他(備考欄を参照)		

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

原則として返却します

教科書

Babar en famille, Jean de Brunhoff, L'Ecole des loisirs, 1980, 9782211066372

履修上の注意

履修者数制限あり。 / 第1回目の授業に必ず出席のこと。

講義コード	U360103105	科目ナンバリング	036A800
講義名	ゼミナールE		
副題	Théâtre comique du Moyen Age		
英文科目名	Seminar		
担当者名	MARE, Thierry		
単位	4	配当年次	学部 3年～4年
時間割	通年 火曜日 2時限 南1-101		

授業概要

Nous étudierons, au cours de cette année, trois pièces de théâtre populaire médiéval. Deux d'entre elles appartiennent au genre de la "farce", dont elles sont les plus fameuses : 『La Farce du Cuvier』 (fin du XV^{ème} siècle) est une comédie domestique à trois personnages, 『La Farce de Maître Pathelin』 (autour de 1460) plus complexe et riche en personnages, est généralement considéré comme le chef-d'oeuvre du genre et a eu une influence considérable sur la littérature des siècles suivants. Nous y joindrons un monologue comique : 『Le Franc-archer de Bagnolet』 (vers 1468).

到達目標

Les textes originaux sont composés dans la langue de la fin du Moyen Age, un peu différente du français moderne. Il conviendra donc de faire attention au vocabulaire et à certaines des constructions. Beaucoup d'éditions sont modernisées et nous pourrions éventuellement nous en servir. L'objet de ce cours est de présenter une période de l'histoire du théâtre avec laquelle les étudiants ne sont pas nécessairement familiers mais qui devrait éveiller en eux un certain nombre d'échos : les ménagères autoritaires, les escrocs malicieux et les vantards poltrons existent, je le suppose, dans la plupart des littératures du monde ! Nous les verrons donc à l'oeuvre dans des formes dramatiques relativement simples mais déjà assez élaborées, notamment dans le cas des aventures de Maître Pierre Pathelin.

授業内容

実施回	内容
-----	----

- | | |
|------|--|
| 第1回 | Introduction générale |
| 第2回 | Lecture et commentaire de 『La Farce du Cuvier』 (1) |
| 第3回 | Lecture et commentaire de 『La Farce du Cuvier』 (2) |
| 第4回 | Lecture et commentaire de 『La Farce du Cuvier』 (3) |
| 第5回 | Lecture et commentaire de 『La Farce du Cuvier』 (4) |
| 第6回 | Lecture et commentaire de 『La Farce du Cuvier』 (5) |
| 第7回 | Lecture et commentaire de 『La Farce du Cuvier』 (6) |
| 第8回 | Lecture et commentaire de 『La Farce du Cuvier』 (7) |
| 第9回 | Lecture et commentaire de 『La Farce du Cuvier』 (8) |
| 第10回 | Lecture et commentaire de 『La Farce du Cuvier』 (9) |
| 第11回 | Introduction à La Farce de Maître Pathelin |
| 第12回 | Lecture et commentaire de 『La Farce de Maître Pathelin』 (1) |
| 第13回 | Lecture et commentaire de 『La Farce de Maître Pathelin』 (2) |
| 第14回 | Lecture et commentaire de 『La Farce de Maître Pathelin』 (3) |
| 第15回 | Lecture et commentaire de 『La Farce de Maître Pathelin』 (4) |
| 第16回 | Lecture et commentaire de 『La Farce de Maître Pathelin』 (5) |
| 第17回 | Lecture et commentaire de 『La Farce de Maître Pathelin』 (6) |
| 第18回 | Lecture et commentaire de 『La Farce de Maître Pathelin』 (7) |
| 第19回 | Lecture et commentaire de 『La Farce de Maître Pathelin』 (8) |
| 第20回 | Lecture et commentaire de 『La Farce de Maître Pathelin』 (9) |
| 第21回 | Introduction au 『Franc-archer de Bagnolet』 |
| 第22回 | Lecture et commentaire du 『Franc-archer de Bagnolet』 (1) Exposés |
| 第23回 | Lecture et commentaire du 『Franc-archer de Bagnolet』 (2) Exposés |
| 第24回 | Lecture et commentaire du 『Franc-archer de Bagnolet』 (3) Exposés |
| 第25回 | Lecture et commentaire du 『Franc-archer de Bagnolet』 (4) Exposés |
| 第26回 | Lecture et commentaire du 『Franc-archer de Bagnolet』 (5) Exposés |

授業計画コメント

Calendrier tout à fait théorique : tout dépendra de notre rapidité de lecture et, pour les exposés, du nombre total des étudiants inscrits à ce séminaire.

授業方法

J'expliquerai les difficultés grammaticales, lexicales et historiques du texte et répondrai à toutes les questions qu'on me posera, avant de procéder à un commentaire littéraire et dramaturgique.

使用言語

日本語・英語以外

準備学習(予習・復習)

Plus qu'une préparation au cours (tout le monde ne possède pas nécessairement les dictionnaires nécessaires à l'étude du moyen français), je demanderai aux étudiants de réviser soigneusement ce qu'ils y auront appris une fois rentrés chez eux.

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	50 %	Exposés faits en classe
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

Vers la fin du second semestre, chaque étudiant devra présenter un exposé en français expliquant une partie du texte (en l'occurrence 『Le Franc-archer de Bagnolet』) que nous n'aurons pas encore lue. Cet exposé est capital pour l'évaluation générale de l'année.

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

Je reprendrai l'exposé après qu'il aura été présenté à la classe et y ajouterai les compléments ou les amendements nécessaires.

教科書

La Farce du cuvier: Carré Classique, Anonyme, Nathan, 1, 2023, 978-2095015817

La Farce de Maître Pathelin: Classiques et Cie, Triboulet, Hatier, 1, 2013, 978-2218971594

Le Franc-archer de Bagnolet: L'Encyclopédie médiévale, Anonyme, Paléo, 1, 2018, 979-1033300267

教科書コメント

Ces livres (surtout le troisième) ne sont pas nécessairement faciles à trouver !

履修上の注意

履修者数制限あり。/第1回目の授業に必ず出席のこと。

講義コード	U360103106	科目ナンバリング	036A800
講義名	ゼミナールF		
副題	作家たちの占領下 VI		
英文科目名	Seminar		
担当者名	水野 雅司		
単位	4	配当年次	学部 3年～4年
時間割	通年 火曜日 2時限 北1-305		

授業概要

昨年度に引き続き、占領下のフランスをテーマとした作品や当時の状況に関する証言等を取り上げ、当時の作家・芸術家・知識人たちが歴史的現実とどのように向き合っていたのか、あるいは後の世代がどのように向き合おうとしているのかを考察すると同時に、文学作品や映画などの芸術における〈歴史と記憶〉という問題にも目を向けたい。第1学期は、昨年度に引き続き、ナタリー・サロート(Nathalie Sarraute)の『見知らぬ男の肖像(Portrait d'un inconnu)』を中心に進めます。また随時、戦争に関わる映画の視聴およびそれを題材とした課題なども取り入れる予定。第2学期は受講生による研究発表とその後の質疑応答・討論が中心になります。

到達目標

第二次世界大戦下のフランスに関する作品や文献に接することで、歴史的現実とそれに対する人間の表現活動のさまざまなあり方について理解を深め、自分なりの考えを持てるようになること、またそれを自分の言葉でまとめることができるようになることを目標とする。

授業内容

実施回	内容
第1回	Introduction I : 第1学期の授業の進め方について等
第2回	ゼミ生の自己紹介、自身の関心領域などについての情報交換等
第3回	テキスト訳読と解説(1)
第4回	テキスト訳読と解説(2)
第5回	サブテキスト・資料による演習と討論 I
第6回	テキスト訳読と解説(3)
第7回	テキスト訳読と解説(4)
第8回	テキスト訳読と解説(5)
第9回	サブテキスト・資料による演習と討論 II
第10回	テキスト訳読と解説(6)
第11回	テキスト訳読と解説(7)
第12回	テキスト訳読と解説(8)
第13回	理解度の確認
第14回	Intorduction II : 第2学期の授業および研究発表について等
第15回	サブテキスト・資料による演習と討論 III
第16回	研究発表と討論(1)
第17回	研究発表と討論(2)
第18回	研究発表と討論(3)
第19回	研究発表と討論(4)
第20回	研究発表と討論(5)
第21回	研究発表と討論(6)
第22回	研究発表と討論(7)
第23回	研究発表と討論(8)
第24回	研究発表と討論(9)
第25回	まとめ - 全体討論
第26回	到達度の確認

授業計画コメント

各回の内容・進度等は目安であり、受講生の理解度や討論の展開、発表の進捗状況に応じて柔軟に修正しながら進めていきます。

授業方法

- 第1学期は、テキストの熟読(演習形式)がメインです。担当者による訳文の発表とそれに対する教員の解説が中心になります。また、随時、サブテキストや音声・映像資料などをもとに参加者同士で討議したり、課題提出をしてもらう予定です。
- 第2学期は、各自の関心にもとづいてあらかじめ決めておいたテーマについて研究発表をもらい、発表後、参加者全員で討議します。研究発表は、授業内で行うのが原則ですが、授業内での討論の時間を確保するため、あらかじめ準備したものを授業またはオンデマンドで配信するという形式も採用する場合があります。

(3) 学年末に研究発表での討論をもとに各自の研究結果をまとめたレポートの提出あるいは筆記試験で成果を確認します。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

事前にテキストの該当箇所を読み、疑問点を明確にしておくこと。研究発表のテーマが決定したら、授業と並行して、自主的に関連資料などに当たり、各自で準備しておく必要があります。指示された参考文献にも目を通しておくこと。(約1~2時間)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	20 %	レポート等に代える場合もある。
学年末試験(第2学期)	40 %	レポート等に代える場合もある。
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	30 %	研究発表。討議への参加度など。
その他(備考欄を参照)	10 %	課題提出など。

成績評価コメント

上記はあくまでも目安です。学期末試験、第2学期の研究発表、学年末レポート、課題の成果および授業への参加度等を総合的に判断して評価します。また学期末試験に代えてレポート等の提出物を課す場合があります。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

学期末試験、確認テスト、提出課題等は、採点後に授業内または Moodle で返却・解説します。

教科書

Portrait d'un inconnu: Folio, Nathalie Sarraute, Gallimard, 1977, 9782070369423

参考文献

ナチ占領下のフランス - 沈黙・抵抗・協力 - : 講談社選書メチエ, 渡辺和行, 講談社, 1994

ホロコーストのフランス, 渡辺和行, 人文書院, 1998

占領下パリの思想家たち - 収容所と亡命の時代: 平凡社新書, 桜井哲夫, 平凡社, 2007

参考文献コメント

その他、随時授業内で指示します。

履修上の注意

履修者数制限あり。 / 第1回目の授業に必ず出席のこと。

その他

質問や連絡などは授業の前後に受け付けます。次回の授業の前に確認が必要な場合は Moodle のメッセージにて受け付けます。ただし、すぐに返信できない場合もあるので、余裕を持って連絡してください。

講義コード	U360103107	科目ナンバリング	036A800
講義名	ゼミナールG		
英文科目名	Seminar		
担当者名	大野 麻奈子		
単位	4	配当年次	学部 3年～4年
時間割	通年 水曜日 2時限 西1-306		

授業概要

サミュエル・ベケット(1906-1989)の後期戯曲作品数篇を読み解く。関連する作品(演劇、文学に限らず音楽・絵画など他分野の芸術)にもふれつつ、多角的に一人の作家の作品に向き合うことを試みる。

到達目標

フランス語で書かれた戯曲作品および学術的な文章を理解できるようになる。関連作品について提示されたテーマについて自ら問題提起をしてレポートを書き、それに基づいた口頭発表をすることができるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	オリエンテーション
第2回	資料1の読解。受講者による訳読。教師による補足説明。映像資料視聴。ディスカッション。
第3回	資料2の読解。受講者による訳読。教師による補足説明。ディスカッション。
第4回	資料3の読解。受講者による訳読。教師による補足説明。ディスカッション。
第5回	資料4の読解。受講者による訳読。教師による補足説明。ディスカッション。
第6回	資料5の読解。受講者による訳読。教師による補足説明。ディスカッション。
第7回	資料6の読解。受講者による訳読。教師による補足説明。ディスカッション。
第8回	資料7の読解。受講者による訳読。教師による補足説明。ディスカッション。
第9回	資料8の読解。受講者による訳読。教師による補足説明。ディスカッション。
第10回	資料9の読解。受講者による訳読。教師による補足説明。ディスカッション。
第11回	資料10の読解。受講者による訳読。教師による補足説明。ディスカッション。
第12回	映像資料視聴。教師による補足説明。ディスカッション。
第13回	まとめ
第14回	後期オリエンテーション
第15回	資料11の読解。受講者による訳読。教師による補足説明。ディスカッション。
第16回	資料12の読解。受講者による訳読。教師による補足説明。ディスカッション。
第17回	資料13の読解。受講者による訳読。教師による補足説明。ディスカッション。
第18回	資料14の読解。受講者による訳読。教師による補足説明。ディスカッション。
第19回	資料15の読解。受講者による訳読。教師による補足説明。ディスカッション。
第20回	受講者による発表。質疑応答。教師による補足説明。
第21回	受講者による発表。質疑応答。教師による補足説明。
第22回	受講者による発表。質疑応答。教師による補足説明。
第23回	受講者による発表。質疑応答。教師による補足説明。
第24回	受講者による発表。質疑応答。教師による補足説明。
第25回	まとめ①
第26回	まとめ②

授業計画コメント

上記の計画は目安であり、詳しいスケジュールは年度初めに伝える。また、特に第二学期の発表については各自の夏季レポートによりグループ分けをするため、正確なスケジュールはレポート提出後に決まる。

授業方法

演習方式。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

配布されたテキストの予習。また、関連作品を日本語で多読することを勧める。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	50 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	個人またはグループでの発表も含む
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

上記の数字はあくまでも目安である。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

レポートにはそれぞれコメントをつけて返却する。

教科書コメント

資料については授業開始時に指示する。

履修上の注意

履修者数制限あり

第1回目の授業に必ず出席すること

講義コード	U360103108	科目ナンバリング	036A800
講義名	ゼミナールH		
英文科目名	Seminar		
担当者名	志々見 剛		
単位	4	配当年次	学部 3年～4年
時間割	通年 水曜日 2時限 南1-101		

授業概要

アンソロジーをもとに、フランスの16～19世紀の詩を読みます。テーマはcarpe diem(その日を摘め)です。

到達目標

詩の形式やテーマを理解しながら、読解できるようになること。

授業内容

実施回	内容
第1回	イントロダクション
第2回	テキストの読解
第3回	テキストの読解
第4回	テキストの読解
第5回	テキストの読解
第6回	テキストの読解
第7回	テキストの読解
第8回	テキストの読解
第9回	テキストの読解
第10回	テキストの読解
第11回	テキストの読解
第12回	テキストの読解
第13回	テキストの読解
第14回	テキストの読解
第15回	テキストの読解
第16回	テキストの読解
第17回	テキストの読解
第18回	テキストの読解
第19回	テキストの読解
第20回	テキストの読解
第21回	テキストの読解
第22回	テキストの読解
第23回	テキストの読解
第24回	テキストの読解
第25回	テキストの読解
第26回	テキストの読解

授業計画コメント

最初の1～2篇は全員で読みますが、その後は担当を決めて順に発表してもらいます。

授業方法

対面授業(演習)

準備学習(予習・復習)

発表がないとき:テキストに目を通す(30分程度)

発表があるとき:テキストを精読し、レジュメを準備する(2時間程度)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		

学年末試験(第2学期)

中間テスト		
レポート	40 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	60 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

上記の割合はあくまで目安であり、告知のうえ変更することがあります。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

コメントして返却します。

教科書

Carpe diem L'art du bonheur selon les poètes de la Renaissance:Librio Poésie,Elsa Marpeau ,Flammarion,2006,9782290354827

履修上の注意

積極的な参加を期待します。発表回に無断で欠席するのは厳禁。
履修者数制限あり。/第1回目の授業に必ず出席のこと。

その他

卒業論文、三年次レポートについては、授業外で面談を設定する予定です。詳細は授業内で。

講義コード	U360103109	科目ナンバリング	036A800
講義名	ゼミナールI		
副題	自伝的作品研究		
英文科目名	Seminar		
担当者名	内藤 真奈		
単位	4	配当年次	学部 3年～4年
時間割	通年 火曜日 3時限 北1-407		

授業概要

マルグリット・デュラス『愛人 L'Amant』(1984)の読解を通して「自伝」「文学ジャンル」「植民地」「イメージ」など、文化・文学的な問題について考える。

到達目標

フランス語の文章を文法や辞書を手がかりに読み解く能力を身につける。
関連テーマを自らの芸術作品鑑賞体験との関わりにおいて理解し、考えを明確に表現できるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	ガイダンス
第2回	授業テーマについて解説・個人発表①
第3回	グループ発表
第4回	学生による音読・訳読 Q&A 教員による解説 (1)
第5回	学生による音読・訳読 Q&A 教員による解説 (2)
第6回	個人発表②
第7回	個人発表③
第8回	学生による音読・訳読 Q&A 教員による解説 (3)
第9回	学生による音読・訳読 Q&A 教員による解説 (4)
第10回	学生による音読・訳読 Q&A 教員による解説 (5)
第11回	学生による音読・訳読 Q&A 教員による解説 (6)
第12回	学生による音読・訳読 Q&A 教員による解説 (7)
第13回	レポートの書き方・前期のまとめ
第14回	前期末レポートの講評
第15回	学生による音読・訳読 Q&A 教員による解説 (8)
第16回	学生による音読・訳読 Q&A 教員による解説 (9)
第17回	学生による音読・訳読 Q&A 教員による解説 (10)
第18回	学生による音読・訳読 Q&A 教員による解説 (11)
第19回	学生による音読・訳読 Q&A 教員による解説 (12)
第20回	学生による音読・訳読 Q&A 教員による解説 (13)
第21回	学生による音読・訳読 Q&A 教員による解説 (14)
第22回	学生による音読・訳読 Q&A 教員による解説 (15)
第23回	学生による音読・訳読 Q&A 教員による解説 (16)
第24回	学生による音読・訳読 Q&A 教員による解説 (17)
第25回	学生による音読・訳読 Q&A 教員による解説 (18)
第26回	一年のまとめ

授業計画コメント

授業内容に関する口頭発表に加え、卒論、3年次レポート等に関する発表や質問の機会を設ける。
詳細なスケジュールは授業時に指示する。

授業方法

演習形式
学生が音読・訳読を行い、教員がそれにコメントや補足説明をつけるかたちで授業を進める。
授業テーマに関するディスカッションを行う。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

予習:授業で扱われる範囲の訳読発表、テーマに関する口頭発表を準備する。疑問点があれば授業で質問ができるよう明確にし

ておく(1時間半)。

復習:訳読準備の際に理解が不足していた文法事項について復習し、新たに得たボキャブラリーを定着させる(30分)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	50 %	前期末レポート・学年末レポート
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	訳読・口頭発表を含む
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

評価基準は目安であり、状況によっては変更する場合がある。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

レポートや発表に対して、適宜、コメントや講評を行う。

教科書

L'Amant, Marguerite Duras, Minuit, 1984, 9782707306951

参考文献コメント

参考文献、資料は授業時に指示する。

履修上の注意

履修者数制限あり。

第1回目の授業に必ず出席のこと。

講義コード	U360106101	科目ナンバリング	036A902
講義名	卒業演習A		
英文科目名	Graduation Seminar		
担当者名	田上 竜也		
単位	0	配当年次	学部 4年
時間割	通年 木曜日 4時限 西1-306		

授業概要

フランス世紀末文学を代表する作家のひとりヴィリエ・ド・リラダンの短編集『奇譚集』から、数篇選んで読みます。

到達目標

作品の正確な読解につとめるとともに、そこにこめられた風刺の意味合いや時代背景について理解を深めます。

授業内容

実施回	内容
第1回	概要説明
第2回	訳読
第3回	訳読
第4回	訳読
第5回	訳読
第6回	訳読
第7回	訳読
第8回	訳読
第9回	訳読
第10回	訳読
第11回	訳読
第12回	訳読
第13回	前期まとめ
第14回	訳読
第15回	訳読
第16回	訳読
第17回	訳読
第18回	訳読
第19回	訳読
第20回	訳読
第21回	訳読
第22回	訳読
第23回	訳読
第24回	訳読
第25回	訳読
第26回	年間まとめ

授業方法

状況に応じ、対面演習ないしZoom 使用。事前に指示する。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

各自毎回数ページを読んでくること。とくに指定された箇所は正確な訳を心がけること。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	20 %	
学年末試験(第2学期)	20 %	
中間テスト		

中間テスト

レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	60 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

平常点(クラス参加、グループ作業の成果等):60%(出席、聴講態度重視) 聴講態度重視。居眠り、私語、飲食(ガム、飴も含む)、無断退出(必要な場合には必ず申告すること)、メールなどは大きな減点対象となります。第2学期(学年末試験):20%(授業内容の確認) 第1学期(学期末試験):20%(授業内容の確認)

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

前期試験は返却する。後期試験は返却しないが質問には応じる。

教科書コメント

テキストはコピー配布

履修上の注意

履修者数制限あり。 / 第1回目の授業に必ず出席のこと。

講義コード	U360106102	科目ナンバリング	036A902
講義名	卒業演習B		
副題	モリエール『守銭奴』を読む		
英文科目名	Graduation Seminar		
担当者名	志々見 剛		
単位	0	配当年次	学部 4年
時間割	通年 金曜日 3時限 南1-106		

授業概要

モリエールの『守銭奴』を精読します。

到達目標

時代の背景や言葉の含蓄を理解しながら、モリエールの演劇テキストを読解できるようになること。

授業内容

実施回	内容
第1回	イントロダクション
第2回	テキストの読解
第3回	テキストの読解
第4回	テキストの読解
第5回	テキストの読解
第6回	テキストの読解
第7回	テキストの読解
第8回	テキストの読解
第9回	テキストの読解
第10回	テキストの読解
第11回	テキストの読解
第12回	テキストの読解
第13回	テキストの読解
第14回	テキストの読解
第15回	テキストの読解
第16回	テキストの読解
第17回	テキストの読解
第18回	テキストの読解
第19回	テキストの読解
第20回	テキストの読解
第21回	テキストの読解
第22回	テキストの読解
第23回	テキストの読解
第24回	テキストの読解
第25回	テキストの読解
第26回	テキストの読解

授業方法

対面授業(演習)

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

事前の準備(1時間程度)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		

学年末試験(第2学期)

中間テスト		
レポート	30 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	70 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

上記はあくまで目安であり、告知したうえで変更する可能性があります。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

コメントをつけて返却。

教科書

L'Avare:Folio classique,Molière,Gallimard,2013,978-2070450022

履修上の注意

事前の準備をしっかりとすること。
自分が当たっているときに無断で欠席するのは厳禁です。
履修者数制限あり。/第1回目の授業に必ず出席のこと。

講義コード	U360106103	科目ナンバリング	036A902
講義名	卒業演習C		
副題	20世紀短編小説読解		
英文科目名	Graduation Seminar		
担当者名	内藤 真奈		
単位	0	配当年次	学部 4年
時間割	通年 水曜日 4時限 西1-206		

授業概要

モーリス・ルブランによるアルセーヌ・ルパンシリーズのうち、最初の短編集『怪盗紳士ルパン』を時代性に留意しつつ読む。

到達目標

フランス語を文法事項に即して正確に読解する。

作品の文化的・歴史的な背景を踏まえながら内容を理解したうえで、作品について自分の考えを明確に表現できるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	ガイダンス
第2回	関連テーマの概説、個人発表
第3回	学生による音読・訳読 Q&A 教員による解説 (1)
第4回	学生による音読・訳読 Q&A 教員による解説 (2)
第5回	学生による音読・訳読 Q&A 教員による解説 (3)
第6回	学生による音読・訳読 Q&A 教員による解説 (4)
第7回	学生による音読・訳読 Q&A 教員による解説 (5)
第8回	学生による音読・訳読 Q&A 教員による解説 (6)
第9回	学生による音読・訳読 Q&A 教員による解説 (7)
第10回	学生による音読・訳読 Q&A 教員による解説 (8)
第11回	学生による音読・訳読 Q&A 教員による解説 (9)
第12回	学生による音読・訳読 Q&A 教員による解説 (10)
第13回	達成度の確認
第14回	前期の振り返り
第15回	学生による音読・訳読 Q&A 教員による解説 (11)
第16回	学生による音読・訳読 Q&A 教員による解説 (12)
第17回	学生による音読・訳読 Q&A 教員による解説 (13)
第18回	学生による音読・訳読 Q&A 教員による解説 (14)
第19回	学生による音読・訳読 Q&A 教員による解説 (15)
第20回	学生による音読・訳読 Q&A 教員による解説 (16)
第21回	学生による音読・訳読 Q&A 教員による解説 (17)
第22回	学生による音読・訳読 Q&A 教員による解説 (18)
第23回	学生による音読・訳読 Q&A 教員による解説 (19)
第24回	学生による音読・訳読 Q&A 教員による解説 (20)
第25回	学生による音読・訳読 Q&A 教員による解説 (21)
第26回	達成度の確認

授業方法

演習形式

学生が音読・訳読を行い、教員がそれにコメントや補足説明をつけるかたちで授業を進める。

授業テーマに関するディスカッションを行う。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

予習: 授業で扱われる範囲の訳読発表を準備する。疑問点があれば授業で質問ができるよう明確にしておく(1時間半)。

復習: 訳読準備の際に理解が不足していた文法事項について復習し、新たに得たボキャブラリーを定着させる(30分)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	30 %	
学年末試験(第2学期)	30 %	
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	40 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

評価基準は目安であり、状況によっては変更する場合がある。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

試験答案などは採点、コメントをつけて返却する。

教科書

Arsène Lupin, gentleman cambrioleur:Folio Junior,Maurice LEBLANC,Gallimard Jeunesse,2021,9782075151894

参考文献コメント

授業時に都度指示する。

履修上の注意

履修者数制限あり。

第1回目の授業に必ず出席のこと。

講義コード	U360107101	科目ナンバリング	036A407
講義名	入門演習A		
英文科目名	Introduction to Academic Skills		
担当者名	鈴木 雅生		
単位	2	配当年次	学部 1年
時間割	第1学期 金曜日 5時限 南1-203		

授業概要

大学で学ぶにあたって必要なアカデミック・スキル(課題に応じた情報や文献の検索、読解及び内容の要約、レポートの作成、発表の仕方等)を、少人数の演習形式で習得する。

到達目標

1. 高校までとは異なる、大学での学び方を身につける。
2. 論理的なテキストを読解し、内容を要約できるようになる。
3. 論文・レポートを作成するうえでの基本的な知識、論理的な文章を書く能力を習得する。
4. 説得的な口頭発表の仕方を身につける。

授業内容

実施回	内容
第1回	オリエンテーション
第2回	図書館の利用、資料・文献の検索
第3回	口頭発表グループ分け・テーマの設定
第4回	口頭発表の仕方
第5回	要約について学ぶ①
第6回	要約について学ぶ②
第7回	グループごとの発表①
第8回	グループごとの発表②
第9回	レポートの書き方①
第10回	レポートの書き方②
第11回	レポートの書き方③
第12回	レポートの書き方④
第13回	授業のまとめ

授業計画コメント

授業計画はあくまで予定であり、授業の進捗によって変更する可能性があることは言うまでもない。

授業方法

講義、グループワーク、ディスカッションを組み合わせで行う

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

授業は課題をもとに進めるので、必ずやってくること。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	40 %	最終レポート
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	60 %	課題の提出と授業への積極的な参加を重視する
その他(備考欄を参照)		

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

提出された課題は授業内で解説をおこなう。レポートについては、コメントを付与のうえ返却する。

参考文献

大学生 学びのハンドブック,世界思想社編集部・編,世界思想社編集部,4訂,2019,978-4-7907-1707-2
 新版 論文の教室 レポートから卒論まで,戸田山和久,NHK出版,2012,978-4140911945

履修上の注意

履修できるのは、フランス語圏文化学科の学生のみ。

履修者数制限あり。

第1回目の授業に必ず出席のこと。

講義コード	U360107102	科目ナンバリング	036A407
講義名	入門演習B		
英文科目名	Introduction to Academic Skills		
担当者名	大野 麻奈子		
単位	2	配当年次	学部 1年
時間割	第1学期 金曜日 5時限 西5-301		

授業概要

大学で学ぶにあたって必要なアカデミック・スキル(課題に応じた情報や文献の検索、読解及び内容の要約、レポートの作成、発表の仕方等)を、少人数の演習形式で習得する。

到達目標

1. 高校までとは異なる、大学での学び方を身につける。
2. 論理的なテキストを読解し、内容を要約できるようになる。
3. 論文・レポートを作成するうえでの基本的な知識、論理的な文章を書く能力を習得する。
4. 説得的な口頭発表の仕方を身につける。

授業内容

実施回	内容
第1回	オリエンテーション及び口頭発表のグループ分け・テーマ設定の準備
第2回	図書館の利用、資料・文献の検索
第3回	各グループのテーマ設定/要約について学ぶ①
第4回	要約について学ぶ②/口頭発表の仕方①
第5回	要約について学ぶ③
第6回	要約について学ぶ④
第7回	口頭発表の仕方②/口頭発表の中間報告
第8回	口頭発表の仕方③
第9回	グループごとの発表①
第10回	グループごとの発表②
第11回	レポートの書き方①
第12回	レポートの書き方②
第13回	授業のまとめ

授業計画コメント

授業計画はあくまで予定であり、授業の進捗によって変更する可能性があることは言うまでもない。

授業方法

講義、グループワーク、ディスカッションを組み合わせで行う

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

毎回課題を出す。授業はその課題をもとに進めるので、必ずやってくる。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	40 %	最終レポート
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	60 %	課題の提出と授業への積極的な参加を重視する
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

口頭発表でもレポートでも、情報源を注などに明示すること。また、レポートについては必ず書籍からの引用を入れること。その場合も当然のことながら、引用元の書籍についての情報を注及び参考文献表に明示すること。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

提出された課題はコメントを付与のうえ返却する。また、課題返却時には授業内でも説明をする。

参考文献

大学生 学びのハンドブック,世界思想社編集部・編,世界思想社編集部,4訂,2019,978-4-7907-1707-2
新版 論文の教室 レポートから卒論まで,戸田山和久,NHK出版,2012,978-4140911945

履修上の注意

履修できるのは、フランス語圏文化学科の学生のみ。
履修者数制限あり。
第1回目の授業に必ず出席のこと。

講義コード	U360107103	科目ナンバリング	036A407
講義名	入門演習C		
英文科目名	Introduction to Academic Skills		
担当者名	内藤 真奈		
単位	2	配当年次	学部 1年
時間割	第1学期 金曜日 5時限 西2-506		

授業概要

フランス語圏文化学科の学生を対象としたコース。

大学で学ぶにあたって必要なアカデミック・スキル(課題に応じた情報や文献の検索、読解及び内容の要約、レポートの作成、発表の仕方等)を、少人数の演習形式で習得する。

到達目標

1. 高校までとは異なる、大学での学び方を身につける。
2. 論理的なテキストを読解し、内容を要約できるようになる。
3. 論文・レポートを作成するうえでの基本的な知識、論理的な文章を書く能力を習得する。
4. 説得的な口頭発表の仕方を身につける。

授業内容

実施回	内容
第1回	オリエンテーション
第2回	口頭発表グループ分け・グループワーク
第3回	要約について学ぶ①
第4回	図書館の利用、資料・文献の検索
第5回	口頭発表の仕方
第6回	要約について学ぶ②
第7回	個人発表①
第8回	口頭発表の中間報告
第9回	個人発表②
第10回	レポートの書き方
第11回	グループ発表①
第12回	グループ発表②
第13回	授業のまとめ

授業計画コメント

授業計画はあくまで予定であり、授業の進捗によって変更する可能性がある。

授業方法

講義、グループワーク、ディスカッションを組み合わせで行う。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

毎回課題を出す。授業はその課題をもとに進めるので、必ずやってくること。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	40 %	最終レポート
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	60 %	課題の提出と授業への積極的な参加を重視する
その他(備考欄を参照)		

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

提出された課題は授業内で解説を行う。レポートについては、コメントを付与のうえ返却する。

参考文献

大学生 学びのハンドブック,世界思想社編集部・編,世界思想社編集部,4訂,2019,978-4-7907-1707-2
 新版 論文の教室 レポートから卒論まで,戸田山和久,NHK出版,2012,978-4140911945

履修上の注意

履修できるのは、フランス語圏文化学科の学生のみ。

履修者数制限あり。

第1回目の授業に必ず出席のこと。

講義コード	U360107104	科目ナンバリング	036A407
講義名	入門演習D		
英文科目名	Introduction to Academic Skills		
担当者名	土橋 友梨子		
単位	2	配当年次	学部 1年
時間割	第1学期 金曜日 5時限 西2-304		

授業概要

大学で学ぶにあたって必要なアカデミック・スキル(課題に応じた情報や文献の検索、読解及び内容の要約、レポートの作成、発表の仕方等)を、少人数の演習形式で習得する。

到達目標

1. 高校までとは異なる、大学での学び方を身につける。
2. 論理的なテキストを読解し、内容を要約できるようになる。
3. 論文・レポートを作成するうえでの基本的な知識、論理的な文章を書く能力を習得する。
4. 説得的な口頭発表の仕方を身につける。

授業内容

実施回	内容
第1回	オリエンテーション
第2回	図書館の利用、資料・文献の検索
第3回	口頭発表グループ分け・テーマの設定
第4回	要約について学ぶ①
第5回	口頭発表の仕方
第6回	要約について学ぶ②
第7回	口頭発表の中間報告
第8回	グループごとの発表①
第9回	グループごとの発表②
第10回	レポートの書き方①
第11回	レポートの書き方②
第12回	レポートの書き方③
第13回	授業のまとめ

授業計画コメント

授業計画はあくまで予定であり、授業の進捗によって変更する可能性があることは言うまでもない。

授業方法

講義、グループワーク、ディスカッションを組み合わせで行う。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

毎回課題を出す。授業はその課題をもとに進めるので、必ずやってくること。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	40 %	最終レポート
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	60 %	課題の提出と授業への積極的な参加を重視する
その他(備考欄を参照)		

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

提出された課題は授業内で解説をおこなう。レポートについては、コメントを付与のうえ返却する。

参考文献

大学生 学びのハンドブック,世界思想社編集部・編,世界思想社編集部,4訂,2019,978-4-7907-1707-2
 新版 論文の教室 レポートから卒論まで,戸田山和久,NHK出版,2012,978-4140911945

履修上の注意

履修できるのは、フランス語圏文化学科の学生のみ。

履修者数制限あり。

第1回目の授業に必ず出席のこと。

講義コード	U360200101	科目ナンバリング	036A201
講義名	フランス語圏文化入門(言語・翻訳)		
英文科目名	Introduction to French Language Cultures: (Language & Translation)		
担当者名	中尾 和美		
単位	4	配当年次	学部 1年～4年
時間割	通年 火曜日 4時限 西2-501		

授業概要

フランス語は系統的にも文法構造上も日本語とは全く異なった言語である。にもかかわらず、ともに「頭(tête)」という語は、「人間の頭、くぎの頭、冒頭」を指すことができる。他方、フランス語には、複合過去、半過去、大過去、単純過去など、日本語には存在しない多くの過去を示す形態がある。この授業では、フランス語を日本語と比較対照させることで、ことばについて考え、言語学の第一歩となるような視点を養うことを目的とする。具体的には、新聞、小説などから実際に収集した例文を観察し、日本語と対照させることで、フランス語の語彙の使い方、またフランス語の人称、時制、法、態などの文法形式がどのように言語外現実を表現しているかを考察する。さらに、フランス語の歴史や21世紀におけるフランス語圏の現状についても考える。

到達目標

フランス語がなぜイタリア語やスペイン語と似ているのか理解できるようになる。フランス語の文法(複合過去と半過去の違い、部分冠詞とは?)について、より具体的に理解できるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	導入 フランス語圏の国々の紹介
第2回	フランス語圏の国々の現状(1) ベルギー、スイス、ルクセンブルク
第3回	フランス語圏の国々の現状(2) カナダ、ルイジアナ
第4回	フランス語圏の国々の現状(3) アフリカ大陸
第5回	フランス語の歴史、変遷(1) ラテン語とフランス語
第6回	フランス語の歴史、変遷(2) ストラスブールの誓約
第7回	フランス語の歴史、変遷(3) 中世、ルネサンス期
第8回	フランス語の歴史、変遷(4) 近・現代
第9回	フランスにおける様々な地域語と海外領土
第10回	新語法 省略、頭字語
第11回	新語法 複合語、かばん語
第12回	借用語
第13回	借用語と言語政策
第14回	翻訳とは?
第15回	固有名詞の翻訳
第16回	仏語学的考察(1) 部分冠詞・不定冠詞
第17回	仏語学的考察(2) 定冠詞
第18回	仏語学的考察(3) 名詞の性
第19回	仏語学的考察(4) 女性の可視化と包括書法
第20回	仏語学的考察(5) 複合過去と半過去
第21回	仏語学的考察(6) 大過去、単純過去、近接過去
第22回	仏語学的考察(7) 単純未来と近接未来
第23回	仏語学的考察(8) 受動態・代名動詞
第24回	言葉遊び
第25回	なぞなぞ、ダジャレ
第26回	誤用

授業方法

授業内容をスクリーンに映し出し、テーマに沿って講義をおこなう。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

フランス語の初級文法の教科書を復習しておくことが好ましい。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	60 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	40 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

第1学期末と第2学期末にレポート提出を課す。レポート執筆において、AIの使用、剽窃が疑われる場合には、大学の「不正行為者への懲戒内規」に基づき、厳しく対応する。

毎回授業後に行う授業の復習を兼ねたコメントカードの提出、及び授業への参加、出席などの平常点も成績評価の対象とする。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

毎回のコメントカードに書かれた質問については、次回の授業で答え、フィードバックを行う。

教科書コメント

必要に応じてプリントにて配布

参考文献

冠詞の謎を解く,小田涼,白水社,2019

La République et les langues,Michel Launey,Raison d'agir,2023

Le bon usage,M.Grevisse,Duculot,2011

フランス語とはどういう言語か,大橋保夫,駿河台出版,1993

翻訳仏文法(上)(下),鷺見洋一,ちくま学芸文庫,2003

履修上の注意

第1回目の授業に必ず出席のこと。

その他

フランス語圏文化学科の2年生、またはフランス語既習の1年生のみ履修可能。他学科の学生は履修不可。フランス語未習の学生は履修を認めない。但し、1、2年生以外でも「ゼミナール」を履修する資格のない学生は履修を認める。

講義コード	U360201101	科目ナンバリング	036A202
講義名	フランス語圏文化入門(舞台・映像)		
副題	フランス語圏の舞台・映像史		
英文科目名	Introduction to French Language Cultures: (Theater & Films)		
担当者名	大原 宣久		
単位	4	配当年次	学部 1年～4年
時間割	通年 金曜日 1時限 中央-303		

授業概要

前期は、フランス語圏の映画史のおおまかな流れ、映画表現の変遷をたどっていきます。その変遷をよりよく理解するために、古今の名作を題材に、映画作品にどのような主題が選ばれ、どのような技法が使われ、どのような要素が盛り込まれているか、そしてそれらはいかにして統合され、どのような意味を作品に与えているか等について、考察していきます。

後期は、フランスにおける演劇・舞踊(バレエ)・オペラといった舞台芸術史をたどります。各ジャンルごとに、時代順に代表的な作品を紹介していく予定です。また、これら舞台芸術が文学・美術・音楽といった諸芸術とともに進化・発展していった過程を見ていきたいと思えます。

以上に関しては、実際の授業では概論的な説明やテキスト(台本)のみに頼るのではなく、なるべく実際の映画や映像を見ながら実感・体験していけるようにしたいと思います。

到達目標

- 1、映画史(とくにフランス語圏の映画)の変遷をおおまかに理解できるようになる。
- 2、フランスの舞台芸術史の変遷をおおまかに理解できるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	イントロダクション——映画誕生(リュミエール兄弟～ジョルジュ・メリエス)
第2回	ルネ・クレール『巴里の屋根の下』ほか
第3回	ジュリアン・デュヴィヴィエ『望郷』ほか
第4回	ジャン・ルノワール(1)
第5回	ジャン・ルノワール(2)
第6回	マルセル・カルネ(1)
第7回	マルセル・カルネ(2)
第8回	フランソワ・トリュフォー
第9回	ジャン＝リュック・ゴダール
第10回	ジャック・ドゥミ
第11回	エリック・ロメール
第12回	ヌーヴェルヴァーグ以降のフランス語圏映画(1)
第13回	ヌーヴェルヴァーグ以降のフランス語圏映画(2)
第14回	古典演劇 モリエール(1)
第15回	古典演劇 モリエール(2)
第16回	ポーマルシェ『フィガロの結婚』
第17回	ロマンティック・バレエ(1)
第18回	ロマンティック・バレエ(2)
第19回	ロマンティック・バレエ(3)
第20回	オペラ『椿姫』(1)
第21回	オペラ『椿姫』(2)
第22回	オペラ『カルメン』(1)
第23回	オペラ『カルメン』(2)
第24回	現代演劇(1)
第25回	現代演劇(2)
第26回	現代演劇(3)

授業計画コメント

以上はあくまで予定ですので、受講者の理解度などを考慮のうえ、順序・内容等、変更する可能性があります。

授業方法

講義

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

授業内で取り上げた映画作品については、授業後に通して見ておくことが望ましい。紹介した文献についても、授業前後に読んでおくことが望ましい。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	70 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	30 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

平常点は出席、およびリアクションペーパーの内容で評価します。
なお、欠席・遅刻や授業中の私語・途中退席などが目立つ学生は減点するので注意すること。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

リアクションペーパーの内容については、検討に値するものは授業内で随時紹介し、考察・講評をおこなう。

参考文献

- フランス映画史の誘惑:集英社新書,中条省平,集英社,2003,9784087201796
映画とは何か(上):岩波文庫,アンドレ・バザン,岩波書店,2015,9784003357811
映画とは何か(下):岩波文庫,アンドレ・バザン,岩波書店,2015,9784003357828

履修上の注意

第1回目の授業に必ず出席のこと。

その他

履修できるのは、フランス語圏文化学科の1、2年生のみ。但し、1、2年生以外でも「ゼミナール」を履修する資格のない学生は履修を認める。

講義コード	U360202101	科目ナンバリング	036A203
講義名	フランス語圏文化入門(広域文化)		
英文科目名	Introduction to French Language Cultures: (Integrated Cultural Studies)		
担当者名	長井 文		
単位	4	配当年次	学部 1年～4年
時間割	通年 水曜日 2時限 中央-301		

授業概要

本講義では20世紀前半のフランスの歴史と文化を中心に、文学作品や映像資料を参照しつつ、フランスの歴史と文化の変遷をたどる。

19世紀末から20世紀にかけて、近代化が一気に推し進められたフランスでは、現在のフランスの原形が形成された。本講義ではフランス近代化の歩みを学習し、さらに社会的状況と文化的営為の関連を考えていきたい。

なお、本講義の中心テーマは20世紀前半のフランスであるが、1901年を境に社会がそれ以前の社会と大きく変わったわけではない。そのため、本講義では20世紀前半の政体であった第3共和政に関しては、19世紀後半の発足時からその政策を詳細に見ていく。そして20世紀前半以前のフランスの歴史についても、フランスの前期3回までの授業で簡単な解説を行う。

到達目標

- ・フランスの歴史を理解する。
- ・20世紀前半のフランスに生まれた芸術を知る。
- ・文学をはじめとする芸術を、社会との関わりの中で考えられるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	オリエンテーション
第2回	フランス史(1): 古代からブルボン王朝まで(フランス革命まで)
第3回	フランス史(2): フランス革命後のフランス(第3共和政まで)
第4回	第3共和政下のフランス社会: 共和主義政策、「単一にして不可分な国」の創生
第5回	第3共和政下のフランス文化①: ベル・エポック、キャバレー文化、活字文化、パリ万博
第6回	第3共和政下のフランス文化②: ジャポニスム、アール・ヌーヴオー、フォービスム、キュビスム
第7回	第3共和政下のフランス文化③: ナショナリズム文学、ドレフェス事件
第8回	第1次世界大戦
第9回	両大戦間のフランス社会と文化(1): 1920年代を中心に
第10回	両大戦間のフランス文化(2): アール・デコ、シュルレアリスム運動
第11回	両大戦間のフランス社会と文化(3): 狂乱の時代(1930年代を中心に)
第12回	理解度の確認
第13回	ふりかえり
第14回	前期の復習
第15回	第2次世界大戦前夜のフランスとヨーロッパ情勢
第16回	第2次世界大戦(1): 奇妙な戦争、国民革命、ヴィシー政府
第17回	第2次世界大戦(2): ショア、レジスタンス
第18回	第2次世界大戦中の芸術①: ドイツ視察旅行、アルノー・ブレーカー展
第19回	第2次世界大戦中の芸術②: 文学の動向
第20回	第2次世界大戦の終結と戦後世界: レジスタンス神話、「パリ解放」以降のフランス、第4共和政
第21回	第4共和政下のフランス社会: 冷戦のなかのフランス、栄光の30年、植民地解放戦争
第22回	第4共和政下のフランス文化: 実存主義文学、サルトル、カミュ、ボーヴォワール
第23回	第5共和政下のフランス社会と文化: ゴーリスム、女流作家の活躍
第24回	第2次世界大戦後のフランス文化: 映画、ヌーヴェル・ヴァーグ
第25回	理解度の確認
第26回	ふりかえり

授業計画コメント

授業計画はあくまでも予定であり、授業の進行によっては変更となる場合があります。

授業方法

対面授業の場合は講義形式、遠隔授業の場合はZoomとLMSを使用して授業を行います。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

授業で紹介された文献を読んだり、映像資料を確認する(1~2時間程度)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	30 %	
学年末試験(第2学期)	30 %	
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	40 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

授業中にリアクションペーパーを配布し、授業内容に関する感想や簡単な質問に答えてもらいます。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

授業内でコメントを行います。

教科書コメント

授業中は教師が用意した資料を使用します。原語がフランス語の資料を使用する際は、日本語訳を併記します。

参考文献

フランス史 下,福井憲彦=編,山川出版社,2021,9784634423909
はじめて学ぶフランスの歴史と文化,上垣豊=編,ミネルヴァ書房,2020,9784623087785
教養のフランス近現代史,杉本淑彦、竹中幸史=編,ミネルヴァ書房,2015,9784623072712
フランス文化読本,鈴木雅生=編,丸善出版,2014,9784621087466
よく分かるフランス近現代史,剣持久木,ミネルヴァ書房,2018,9784623082605

参考文献コメント

上記以外の参考文献は授業内で適宜紹介します。

履修上の注意

第1回授業には必ず出席してください。

その他

フランス語圏文化学科の1, 2年生のみ履修可。ただし、1, 2年生以外でも「ゼミナール」を履修する資格のない学生は履修を認めません。

講義コード	U360203101	科目ナンバリング	036A204
講義名	フランス語圏文化入門(文学・思想)		
副題	フランス文学の歴史		
英文科目名	Introduction to French Language Cultures: (Literature & Theory)		
担当者名	鈴木 雅生		
単位	4	配当年次	学部 1年～4年
時間割	通年 火曜日 3時限 南1-303		

授業概要

中世から現代にいたるフランス語圏の文学の流れをたどりながら、毎回代表的な作品を、テキストの抜粋を使って読む。受講者各人が、それぞれの興味に従って読書を広げ、深めていく手がかりとなることを期待する。

到達目標

1. フランス語圏文学の豊かさと多様性に触れる。
2. フランス語圏文学のおおまかな全体像を把握する。

授業内容

実施回	内容
第1回	ガイダンス
第2回	中世(1):武勲詩、宮廷風騎士道
第3回	中世(2):物語、抒情詩
第4回	16世紀(1):ルネサンスの文学(ラブレー、モンテーニュ)
第5回	16世紀(2):ルネサンスの詩(クレマン・マロ、ピエール・ド・ロンサール、etc.)
第6回	17世紀(1):古典主義の文学1(デカルト、パスカル)
第7回	17世紀(2):古典主義の演劇(コルネイユ、ラシーヌ、モリエール)
第8回	17世紀(3):古典主義の文学2(ラ・フォンテーヌ、シャルル・ペロー)
第9回	18世紀(1):啓蒙思想家たち(モンテスキュー、デイドロ、ヴォルテール、ルソー)
第10回	18世紀(2):小説(アベ・プレヴォー、ラクロ、etc.)
第11回	18世紀(3):革命前後の文学
第12回	到達度理解度の確認等
第13回	前期のまとめ
第14回	19世紀(1):ロマン主義の先駆者たち(コンスタン、スタール夫人、シャトーブリアン)
第15回	19世紀(2):ロマン主義(ユゴー、ネルヴァル)
第16回	19世紀(3):近代小説(スタンダール、バルザック、デュマ、メリメ)
第17回	19世紀(4):リアリズムから自然主義へ(フロベール、ゾラ、モーパッサン)
第18回	19世紀(5):詩(ボードレール、ヴェルレーヌ、ランボー、マラルメ)
第19回	19世紀(6):世紀末の小説(ヴェルヌ、ユイスマンス、リラダン)
第20回	20世紀前半(1):ジイド、プルースト、ヴァレリー
第21回	20世紀前半(2):ダダとシュルレアリスム
第22回	20世紀前半(3):コクトー、ラディゲ、コレット、サン＝テグジュペリ
第23回	20世紀後半(1):実存主義(サルトル、ボーヴォワール、カミュ)
第24回	20世紀後半(2):不条理演劇
第25回	20世紀後半(3):ヌーヴォー・ロマン、デュラス、クレオール文学
第26回	後期のまとめ

授業計画コメント

授業計画はあくまで目安であり、授業の進度、受講者の興味に応じて内容や順序を変更することがある。

授業方法

講義形式で行う。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

予習:配布したテキストを事前に読み、自分なりの興味を見つけて授業に臨む(60分)。
 復習:授業で学んだ作家の作品を図書館で探したり、実際に読んで自分の興味を探ってみる。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	60 %	前後期レポート
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	40 %	リアクションペーパー
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

レポートだけでなく、毎回のリアクションペーパーを重視する。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

リアクションペーパーに書かれた疑問や意見に関して、各回の授業の冒頭で回答、コメントする。

参考文献

フランス文学史, 田村毅・塩川徹也編, 東京大学出版会, 1995

新版 フランス文学史, 饗庭孝男ほか編, 白水社, 1992

はじめて学ぶフランス文学史, 横山安由美・朝比奈美知子編著, ミネルヴァ書房, 2002

増補 フランス文学案内: 岩波文庫, 渡辺一夫・鈴木力衛編, 岩波書店, 1990

フランス文学の楽しみかた, 永井敦子編著, ミネルヴァ書房, 2021

履修上の注意

履修者数制限あり。第1回目の授業に必ず出席すること。

その他

フランス語圏文化学科の1、2年生のみ履修可。但し、1、2年生以外でも「ゼミナール」を履修する資格のない学生は履修を認める。

講義コード	U360204101	科目ナンバリング	036A301
講義名	フランス語圏文化講義(言語・翻訳)		
英文科目名	Lecture on French Language Cultures: (Language & Translation)		
担当者名	本間 幸代		
単位	4	配当年次	学部 2年～4年
時間割	通年 金曜日 2時限 中央-402		

授業概要

前期前半は、フランス語史の概観を通じフランス語の歴史的変化に関わってきた要因を確認する。前期後半は、フランス語の多様性や言語接触をめぐる問題について理解を深める。後期は、類義表現の使い分け基準について様々な具体例の分析を通じて考えるなどの他、主に語や表現の意味に関わる分野を中心に扱う。

到達目標

フランス語の歴史的変化に関わった要因について理解できるようになる。
ある言語の多様性、および言語接触が引き起こす様々な問題や影響について理解できるようになる。
類義表現の使い分け基準を自力である程度まで明らかにすることができるようになる。
定説に対して批判的視点を持つことができるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	イントロダクション
第2回	フランス語の進化過程①
第3回	フランス語の進化過程②
第4回	フランス語の進化過程③
第5回	フランス語の進化過程④
第6回	フランス語の進化過程⑤
第7回	ロマンス諸語におけるフランス語の特異性
第8回	カナダのフランス語
第9回	フランスの方言・地域言語①
第10回	フランスの方言・地域言語②
第11回	フランスの方言・地域言語③
第12回	少数言語の存続をめぐる問題
第13回	フランス語が英語に及ぼした影響
第14回	言語的規範について
第15回	言語的規範への従属と抵抗の具体的事例 (à vélo VS en vélo)
第16回	語の多義性について
第17回	謎の文法規則を深堀りする①
第18回	謎の文法規則を深堀りする②
第19回	類義表現の分析①
第20回	類義表現の分析②
第21回	類義表現の分析③
第22回	類義表現の分析④
第23回	直説法現在の活用をめぐって
第24回	仮定文に関する考察
第25回	接続法について
第26回	振り返り

授業計画コメント

必ずしも授業計画どおりに進むとは限らず、状況に応じて一部内容に変更が加えられることもある。

授業方法

対面での講義。また必要に応じてグループ・ディスカッションを行う。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

配布されたプリントがある場合は事前に読んでおくこと(1～2時間)。授業で指示を出します。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	60 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	40 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

レポートについては自分の頭で考えているかどうかを重視する。

また平常点については、出席率だけでなくグループディスカッションの際に発言するなどしてきちんと参加しているかどうか的大事となる。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

課された課題については後日フィードバックをする。

教科書

教科書コメント

必要に応じてプリントを配布する。

参考文献

フランス語史を学ぶ人のために,ピーター・リカード(伊藤忠夫、高橋秀雄訳),世界思想社,初,1995,978-4790705413

俗ラテン語:文庫クセジュ,ジョゼフ・ヘルマン(新村猛、国原吉之助訳),白水社,初,1971,978-4560054987

ロマンス語入門,レベッカ・ポズナー(風間喜代三、長神悟訳),大修館書店,再,1997,978-4469211085

南仏と南仏語の話,工藤進,大学書林,第3,1995,978-4475015707

コルシカ語:文庫クセジュ,マリ=ジョゼ・ダルベラ=ステファナツジ(渡邊 淳也訳),白水社,初,2020, 978-4560510360

参考文献コメント

必要に応じてプリントを配布する。

履修上の注意

第1回目の授業に必ず出席すること。

講義コード	U360205101	科目ナンバリング	036A302
講義名	フランス語圏文化講義(舞台・映像)		
副題	フランス映画概説		
英文科目名	Lecture on French Language Cultures: (Theater & Film)		
担当者名	中条 省平		
単位	4	配当年次	学部 2年～4年
時間割	通年 月曜日 1時限 中央-401		

授業概要

リュミエール兄弟による映画の発明から現代まで、フランス映画の歴史をたどる。受講者はフランス語ができるという利点があるので、フランス語の文献を活用して授業内容の深化を図る。

到達目標

単にフランス映画の歴史的概観を体得するのみならず、映画とは何か、表象芸術とは何かという根源的な問題についても思考しうる哲学的、歴史的基礎を身につけてもらいたい。

授業内容

実施回	内容
第1回	リュミエール兄弟
第2回	ジョルジュ・メリエス
第3回	パテとゴーモン
第4回	フィルム・ダール
第5回	ルイ・フィヤード
第6回	アベル・ガンズ
第7回	アヴァンギャルド映画
第8回	詩的レアリスム
第9回	ルネ・クレール
第10回	ジャック・プレヴェール
第11回	ジャン・ヴィゴ
第12回	まとめ
第13回	理解度の確認
第14回	ジャン・ルノワール
第15回	マルセル・カルネ
第16回	ジャック・ベッケル
第17回	ジャン=ピエール・メルヴィル
第18回	ロベール・ブレッソン
第19回	ジャック・タチ
第20回	ジャン・コクトー
第21回	アレクサンドル・アストリュック
第22回	フランソワ・トリュフォー
第23回	ジャン=リュック・ゴダール
第24回	現代の映画
第25回	まとめ
第26回	理解度の確認

授業計画コメント

基本的に対面授業で行う。
2024年度は、2023年度の内容の続講である。

授業方法

講義形式による。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

授業中に言及された映画作家、スタッフ、映画作品、映画専門用語などについて、各種辞書や百科事典、映画事典などを丹念に引きながら確認し、理解を深めること。また、授業中に配布され解説されたフランス語文献を復習して、自分でもきちんと意味が分かるようにしておくこと(約1時間半)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)	80 %	
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	20 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

上記はあくまでも目安であり、試験の成績が基本となることはいうまでもない。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

教室で直接説明する。

教科書コメント

中条省平『フランス映画史の誘惑』(集英社新書)

参考文献コメント

教室で直接指示する。

履修上の注意

第1回目の授業に必ず出席のこと。

講義コード	U360206101	科目ナンバリング	036A303
講義名	フランス語圏文化講義(広域文化)		
英文科目名	Lecture on French Language Cultures: (Integrated Cultural Studies)		
担当者名	寺家村 博		
単位	4	配当年次	学部 2年～4年
時間割	通年 木曜日 1時限 中央-508		

授業概要

このクラスでは1年を通してフランス語圏という概念がもつ意味、そしてフランス語圏の国や地域の中で何かを表現するというのがどのような意味を持ちうるのかを探っていきます。具体的には西ヨーロッパ、北米、アフリカなどに点在するフランス語圏の国や地域(フランスを含む)の現状を理解するとともにそれぞれの文化的特徴をテキストの訳読、さらにグループワーク、個人あるいはグループ発表を通して探っていきます。そして最終的に受講学生がフランス語圏を通してフランスをあらたに捉え直すという新しい視座を獲得することを目指します。

到達目標

フランスを内からだけではなく、外からも同時に理解する視点を持つことができる。フランス語圏の国々の社会、文化、言語政策などに関する知識を得ることができる。さまざまなタイプのフランス語の文章を翻訳する機会ともなる。またフランスを含むフランス語圏の社会的事象に関してグループで考え、その考えをまとめていくことで「社会」について受講生それぞれが自分の捉え方を持てるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	オリエンテーション
第2回	フランス社会に関するDVDからフランスの「外」と「内」を考える1
第3回	フランス社会に関するDVDからフランスの「外」と「内」を考える2
第4回	バカロレアの論述問題を考える1
第5回	バカロレアの論述問題を考える2
第6回	PACSについて考える1
第7回	PACSについて考える2
第8回	フランコフォニーに関する文章を精読する1
第9回	フランコフォニーに関する文章を精読する2
第10回	フランコフォニーに関する文章を精読する3
第11回	フランコフォニーに関する文章を精読する4
第12回	フランコフォニーに関する文章を精読する5
第13回	前期まとめの課題またはテスト
第14回	フランス語圏地域に関するグループ発表(西ヨーロッパ1)
第15回	フランス語圏地域に関するグループ発表(西ヨーロッパ2)
第16回	フランス語圏地域に関するグループ発表(西ヨーロッパ3)
第17回	フランス語圏地域に関するグループ発表(北米1)
第18回	フランス語圏地域に関するグループ発表(北米2)
第19回	フランス語圏地域に関するグループ発表(北米3)
第20回	フランス語圏地域に関するグループ発表(アフリカ1)
第21回	フランス語圏地域に関するグループ発表(アフリカ2)
第22回	フランス語圏地域に関するグループ発表(アフリカ3)
第23回	フランス語圏地域に関するグループ発表(その他地域1)
第24回	フランス語圏地域に関するグループ発表(その他地域2)
第25回	フランス語圏地域に関するグループ発表(その他地域3)
第26回	後期まとめの課題またはテスト

授業計画コメント

各回の授業テーマは受講者数、授業形態によって、必ずしも上記記載通りに完全に実施できるとは限らない。

授業方法

原則演習形式で実施していく。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

次回の授業のために配布したプリントや与えられたテーマに関して予め予習しておくこと(約1時間)

個人やグループ発表の際にでた質問等に関してはよく調べて、次回にフィードバックすること(約45分程度)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)	40 %	
中間テスト		
レポート	20 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	40 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

グループワークや個人発表は重要な評価のポイントとなります。また同時に与えられた課題を的確にこなしていくことも大切になってきます。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

課題を提出後、解説をして理解度を深める。

教科書コメント

プリントは授業時に配布するか、Web上にアップする。

履修上の注意

第1回目の授業に必ず出席してください

その他

連絡は対面時かWeb上でおこないます。

講義コード	U360207101	科目ナンバリング	036A304
講義名	フランス語圏文化講義(文学・思想)		
副題	フランス文化と「ユダヤ人」		
英文科目名	Lecture on French Language Cultures: (Literature & Theory)		
担当者名	鈴木 重周		
単位	4	配当年次	学部 2年～4年
時間割	通年 木曜日 2時限 西1-301		

授業概要

この授業は、ヨーロッパ社会におけるマイノリティ(社会的少数者)としての「ユダヤ人」に着目し、かれらがどのような存在であったのかを、フランスを中心としたヨーロッパの芸術作品(文学、絵画、戯曲等)を通して考えることを目的とします。「ユダヤ人」について考えることは、歴史上常に周縁に追いやられてきた存在をめぐる差別の構造に気づくことでもあります。また、「ユダヤ人」が芸術作品の担い手となった時にどのような軋轢が起こったのかを学ぶことで、現代の日本に生きる私たちにとってもさまざまなマイノリティ(女性、性的少数者等)をめぐる問題が無関係ではないことを知ることができます。

到達目標

- ・ヨーロッパの「ユダヤ人」をめぐる歴史に関する基本的知識を身に付ける。
- ・文化表象におけるマイノリティをめぐる差別の構造を理解する。
- ・授業内容を自身の問題意識に引きつけコメントすることができる。

授業内容

実施回	内容
第1回	授業の進行や成績評価に関するガイダンス、1:ユダヤ人とは誰か
第2回	2:描かれるふたりの「ユダヤ人」:シェイクスピア『ヴェニス商人』
第3回	3:描かれるふたりの「ユダヤ人」:シェイクスピア『ヴェニス商人』
第4回	4:1492年とスペインの異端審問:ベラスケス「侍女たち」、ドストエフスキー「大審問官」
第5回	5:「美しきユダヤ女」としてのレベッカ:スコット『アイヴァンホー』
第6回	6:「美しきユダヤ女」としてのレベッカ:スコット『アイヴァンホー』
第7回	7:サロメという少女:モロー『出現』、フロベール「ヘロディアス」
第8回	8:サロメという少女:ワイルド『サロメ』、ピアズリー「クライマックス」
第9回	9:ある眼差しの誕生とオリエンタリズム:ドラクロワ『サルダナパールの死』、サイード『オリエンタリズム』
第10回	10:「具現化したユダヤ女」サラ・ベルナール:ミュシャ「ジズモンダ」
第11回	11:カミーユ・ピサロの選択:ピサロ『海辺でおしゃべりをするふたりの女性』
第12回	12:バル・エポックの影としてのドレフュス事件:ポランスキー『オフィサー・アンド・スパイ』ドレフュス事件をいかに描くか:プルースト『失われた時を求めて』
第13回	理解度の確認
第14回	13:「私は告発する」:ゾラ『ルーゴン=マッカール叢書』、「大統領フェリックス・フォール閣下への公開書簡」
第15回	14:ドレフュス事件をいかに描くか:プルースト『ゲルマントの方』
第16回	15:ドレフュス事件をいかに描くか:シュウオブ『少年十字軍』
第17回	16:ここではないどこかへ:シュウオブ『サモア書簡』、スティーヴンソン『宝島』
第18回	17:ここではないどこかへ:ゴーギャン『我々はどこから来たのか、我々は何者か、我々はどこに行くのか』、モーム『月と六ペンス』
第19回	18:戦争の時代とユダヤ人芸術家
第20回	19:戦争の時代とユダヤ人芸術家
第21回	20:祖父母をめぐる物語:ジャブロンカ『私にはいなかった祖父母の歴史』
第22回	21:祖父母をめぐる物語:スコヴロネク『私にぴったりの世界』
第23回	22:ヴィシー政権のユダヤ人狩り:ベレスト『ポストカード』
第24回	23:ヴィシー政権のユダヤ人狩り:ベレスト『ポストカード』
第25回	24:フランスにとどまったユダヤ人
第26回	理解度の確認

授業計画コメント

受講者の関心やアクチュアリティに応じて授業内容を変更や修正することがあります。

授業方法

対面で行います。基本的にはスライドを用いた講義ですが、できるかぎり受講者の皆さんとの対話形式で授業を進める予定です。毎授業後にレスポンスペーパー(300字程度)をLMSから提出してもらいます。必ず自筆ノートをとるようにしてください。理解度試験では自筆ノート(自分で書いたもの、コピーや切り貼り等不可)の持ち込みを可とする予定です。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

授業の配布資料に目を通し自筆ノートにまとめる。1時間程度。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	30 %	
学年末試験(第2学期)	30 %	
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)		
その他(備考欄を参照)	40 %	レスポンスペーパー

成績評価コメント

理由のない遅刻や欠席、居眠り、私語その他の授業に関係のない行為は減点の対象となります。
詳しくは初回授業でお話します。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

毎回の授業開始時に前回授業についての受講者からのレスポンスペーパーにコメントする時間を設けます。

参考文献

はじめて学ぶフランス文学史,横山安由美ほか,ミネルヴァ書房,2002,9784623034909
フランス文学の楽しみかた,永井敦子ほか,ミネルヴァ書房,2021,9784623090761
篠沢フランス文学講義1-5,篠沢秀夫,大修館書店,1979,9784469250169
新しく学ぶフランス史,平野千果子,ミネルヴァ書房,2019,9784623085989
ユダヤとは何か,市川裕ほか,CCCメディアハウス,2012,9784484122380

参考文献コメント

購入の必要はありませんが、授業理解に役立ちますので書店や図書館で手に取ってみてください。他の文献に関しては授業内で随時紹介します。

履修上の注意

第1回目の授業に必ず出席すること。

その他

この授業で学ぶことが受講者自身の真摯な問題意識とつながることを期待しています。
フランス語圏文化学科の講義ですが、テーマに関心のある学生であれば学科を問わずどなたでも歓迎します。

講義コード	U360208101	科目ナンバリング	036A401
講義名	フランス語圏文化演習(言語・翻訳)A		
副題	フランス語圏の文学を訳す 17世紀から現代まで		
英文科目名	Seminar in French Language Cultures: (Language & Translation)		
担当者名	岡部 杏子		
単位	4	配当年次	学部 3年～4年
時間割	通年 月曜日 4時限 西2-205		

授業概要

17世紀から現代までのフランス語圏の文学作品(小説、詩、戯曲、美術批評など)を訳読します。各回で扱う作品の作者、文芸批評、関連する映像作品も適宜紹介し、フランス語圏の歴史、文化についても考察します。また、日本語訳のある作品については、複数の既訳を比較し、翻訳の方法論についても考えてゆきます。

到達目標

- フランス語圏の文学作品の訳読をつうじて、
- 1) 2年次、3年次までに学んだ文法の知識を定着させ、運用する力を身につけること
 - 2) 文法の知識に基づき、適切に翻訳する力を養うこと
 - 3) 作品の読解をつうじて、フランス語圏の歴史や文化についての知識を深めること

授業内容

実施回	内容
第1回	ガイダンス・中級文法の知識の確認
第2回	第1課 ロジェ・グルニエ『レオノール』
第3回	第2課 ナタリー・サロート『つまらぬことで』
第4回	第3課 アントワーヌ・レリス『ぼくは君たちを憎まない』
第5回	第4課 エリック＝エマニュエル・シュミット『ノアの子』
第6回	第5課 ジャック・プレヴェール「家族のうた」
第7回	第6課 ジュール・シュペルヴィエル『人さらい』
第8回	第7課 パトリック・モディアノ『血統書』
第9回	第8課 フランソワ・ド・ラ・ロシュフーコー『箴言集』
第10回	第9課 ジュール・シュペルヴィエル「すなおさ」
第11回	第10課 ユベール・マンガレリ『終わりの雪』
第12回	到達度の確認
第13回	前期のまとめと総括
第14回	第11課 アルチュール・ランボー「夜明け」
第15回	第12課 ギヨーム・アポリネール「オレンジエード」
第16回	第13課 アラン・フルニエ『グラン・モーヌ』
第17回	第14課 オノレ・ド・バルザック『砂漠の情熱』
第18回	第15課 イレーヌ・ネミロフスキー『舞踏会』
第19回	第16課 ジョルジュ・サンド「花たちのおしゃべり」
第20回	第17課 シャルル・ボードレー「窓」「スープと雲」
第21回	第18課 フランシス・ポンジュ「水について」(1)
第22回	第18課 フランシス・ポンジュ「水について」(2)
第23回	第19課 ジョルジュ・ペレック『消滅』
第24回	第20課 ミシェル・ビュトール「ジョルジュ・ド・ラトゥール『ダイヤのエースを持ついかさま師』」
第25回	到達度の確認
第26回	後期のまとめと総括

授業計画コメント

受講者の理解度を見ながら進めてゆきます。各回の内容が前後する場合があります。教科書を終えたら、教員が別途資料を配布します。

授業方法

対面でおこないます。受講者が作った訳文と、文法事項の説明を発表してもらったのち、教員が解説をおこないます。訳文の検討をする際には、ディスカッションを取り入れる予定です。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

予習:指定されたテキストを日本語に訳しておくこと、指定されたテキスト内の文法事項の要点を、文法書などで調べておくこと、教科書付属の音声聞き、発音練習をしておくこと(2時間程度)

復習:作成した訳文の修正、授業で扱った文法事項の要点をノートにまとめておくこと、教科書付属の音声聞き、正しい発音を身につけているか確認しておくこと(2時間程度)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	35 %	
学年末試験(第2学期)	35 %	
中間テスト		
レポート		
小テスト	15 %	
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	15 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

正しい発音で音読できること
文法事項を理解した上で日本語に訳せていること
訳文を検討する際のディスカッションに積極的に参加していること

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

授業内で課題・試験の解説をおこないます。

教科書

ことばの色 中級からのフランス文学読本,杉本圭子、福田桃子、岡部杏子,朝日出版社,2010,978-4-255-35312-8

参考文献

新フランス文法事典,朝倉季雄、木下光一,白水社,2002,978-4560000373
フランス語ハンドブック,新倉俊一ほか,白水社,改訂,1996,978-4560002308
仏文和訳の実際,倉田清,大修館書店,1977,978-4469250145
翻訳仏文法 上:ちくま学芸文庫,鷺見洋一,筑摩書房,2003,978-4480087911
翻訳仏文法 下:ちくま学芸文庫,鷺見洋一,筑摩書房,2003, 978-4480087928

参考文献コメント

基礎演習 I で使用した教科書を必ず持参してください。
授業内でも適宜紹介します。

履修上の注意

履修者数制限あり(25名)。
第1回目の授業に必ず出席のこと。

仏和辞典(中辞典以上の収録語彙数の辞書)を必ず持参してください。
1年次、2年次に使用した教科書、文法書も適宜持参して、すぐに参照できるようにすることが望ましいです。
また、仏仏辞典、国語辞典、類語辞典なども必要に応じて持参し、語彙力を高めるよう心がけてください。

その他

指定されたテキストを訳してから授業に臨んでください。
授業内でその場で訳すことのないようにしてください。

質問は、対面の場合は授業後に受け付けます。
オンラインの場合は、授業前後にLMSで受け付けます。

講義コード	U360208102	科目ナンバリング	036A401
講義名	フランス語圏文化演習(言語・翻訳)B		
副題	翻訳入門		
英文科目名	Seminar in French Language Cultures: (Language & Translation)		
担当者名	横川 晶子		
単位	4	配当年次	学部 3年～4年
時間割	通年 火曜日 5時限 西2-306		

授業概要

フランス語を日本語に翻訳するための知識と能力を習得するために、第1学期の授業では平易で短い文章を多く訳し、翻訳に関する基礎的な事柄を学習します。第2学期の授業では、フランスで実際に読まれている文章の日本語訳に取り組み、翻訳の実践を試みます。フランス語圏の最新の文化事情を反映するテキストの読解を通じて、フランス語圏のアクチュアリティーにも触れます。また翻訳研究に関して知っておくべき研究倫理についても学びます。

到達目標

フランス語と日本語の言語としての本質的な相違点を理解し、高度な読解と論述の能力、翻訳に必要な知識と実践的な技術を身につけます。また、単なる仏文和訳と翻訳はどう違うのか、良い訳文とはどのようなものか、文章の性格や目的によって訳がどう変わるのかなどを認識できるようになります。さらに、フランス語圏のテキスト読解を通じて国際的な視野を身につけます。

授業内容

実施回	内容
-----	----

- | | |
|------|--------------------|
| 第1回 | 授業内容及び授業の進め方について |
| 第2回 | 人称代名詞、固有名詞、普通名詞 |
| 第3回 | 形容詞、副詞 |
| 第4回 | 前置詞(句) |
| 第5回 | 動詞、関係代名詞 |
| 第6回 | 会話体の文章 |
| 第7回 | 説明の文章(1) 文体 |
| 第8回 | 説明の文章(2) 語彙 |
| 第9回 | 日記及び手紙の文章 |
| 第10回 | 児童書(1) 文体 |
| 第11回 | 児童書(2) 語彙 |
| 第12回 | 児童書(3) 描写 |
| 第13回 | 総括 |
| 第14回 | 第1学期レポートについて確認及び解説 |
| 第15回 | 平易な小説(1) 文体 |
| 第16回 | 平易な小説(2) 描写 |
| 第17回 | 料理のレシピ(1) 語彙 |
| 第18回 | 料理のレシピ(2) 表現 |
| 第19回 | 映画の字幕(1) 制作方法 |
| 第20回 | 映画の字幕(2) 実践 |
| 第21回 | 新聞・雑誌の文章(1) 語彙 |
| 第22回 | 新聞・雑誌の文章(2) 文体 |
| 第23回 | 現代小説(1) 人称及び時制 |
| 第24回 | 現代小説(2) 描写及び叙述 |
| 第25回 | 現代小説(3) 意識について |
| 第26回 | 総括 |

授業方法

授業内容に沿ったフランス語のテキストを毎回配布し、訳の担当者を決めます。担当者は次の授業の前に訳文を作成して提出します。次の授業では講師がテキストについて説明をおこない、提出された訳文を検討するとともに、担当者や授業参加者の意見やコメントを求めます。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

準備学習(予習・復習)

課題の訳を担当する学生は締切日までに訳文を作成して提出してください。担当でない学生も事前に訳文の作成を試みてください。(1時間～2時間)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	40 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	60 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

試験は実施せず、平常点(授業内の課題による訳文提出)及びレポート(学期末に実施)により総合的に評価します。テキストの内容を正確に把握し、不明点を調査し、的確な日本語で訳文を作成しているかどうかを評価のポイントとします。また、指定された期限内に訳文を提出することも重視します。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

平常の課題については毎回の授業で解説を行いコメントをします。第1学期のレポートについては、第2学期の初回授業で解説コメントを伝えます。

教科書コメント

毎回の授業でプリントを配布します。

参考文献コメント

必要に応じて教室で指示します。

履修上の注意

履修者数制限あり(25名)。第1回目の授業に必ず出席のこと。

履修希望者が25名を超えた場合、初回の授業において以下の優先順位で受講できる学生を決めます。

1. 「卒業翻訳」を選択した4年生。
2. 「言語・翻訳」コース所属の4年生。
3. 「言語・翻訳」コース所属で、「卒業研究(卒業論文・卒業翻訳)」を予定している3年次の学生。
4. その他の3、4年生。

※履修希望者が25名を超えた場合、4の中で抽選を行う。

その他

課題の訳文をLMSにより提出してもらおうのでPC環境を整えておいて下さい。個別の連絡はメールで対応します。

講義コード	U3602081Z1	科目ナンバリング	036A401
講義名	◇フランス語圏文化演習(言語・翻訳)		
副題	Production écrite		
英文科目名	Seminar in French Language Cultures: (Language & Translation)		
担当者名	DERIBLE, Alberic Dany Ser		
単位	4	配当年次	学部 3年～4年
時間割	通年 火曜日 4時限 仏文院生室		

授業概要

Chaque séance de cours se déroulera en trois temps. Les étudiants mèneront tout d'abord une analyse des caractéristiques d'un genre particulier d'écrit et s'exerceront ensuite à manipuler les outils linguistiques qui lui sont spécifiques. Dans un troisième et dernier temps, ils produiront, avec l'aide de l'enseignant et sur le modèle du texte analysé en première partie, un exemple de cet écrit. Seront abordés au cours du semestre divers média tels que : la presse, la littérature et la correspondance.

到達目標

Se familiariser avec les différents genres d'écrit. Analyser les structures spécifiques à chaque type et s'y conformer lors de la production, tant au niveau de la forme (vocabulaire thématique et structures grammaticales) que dans le fond (les actes de parole exprimés). Les étudiants s'essaieront ainsi aux techniques de l'écriture journalistique, littéraire et de la correspondance.

授業内容

実施回	内容
第1回	L'ARTICLE DE PRESSE
第2回	Présentation des concepts opératoires pour l'analyse de texte
第3回	Le texte argumentatif
第4回	Les connecteurs logiques
第5回	La structure d'un article de presse
第6回	Le courrier des lecteurs
第7回	L'expression de l'opinion, le subjonctif
第8回	Un article pour le journal de l'université
第9回	Répondre à un éditorial, faire un commentaire sur un sujet d'actualité
第10回	Évaluation 1, Production écrite : donner son opinion sur un forum en ligne
第11回	LE ROMAN
第12回	Le synopsis
第13回	Les caractéristiques du roman
第14回	L'incipit
第15回	La concordance des temps
第16回	L'extrait de roman
第17回	Le passé simple
第18回	Le discours rapporté
第19回	Les règles de la ponctuation française
第20回	Évaluation 2 : présenter son roman préféré (synopsis et opinion)
第21回	LES AUTRES GENRES D'ECRIT (LE RECIT AUTOBIOGRAPHIQUE, LA LETTRE, LE MAIL)
第22回	Le souvenir
第23回	Le journal de bord, le récit d'aventure
第24回	L'imparfait et le passé composé
第25回	Les formules de politesse de début et de fin de correspondance
第26回	Le mail : accepter l'invitation d'un(e) ami(e), demander des informations sur une sortie

授業方法

Les classes se dérouleront en présentiel. Après une première partie consacrée à l'analyse des différents types de texte, les étudiants seront guidés dans leur production personnelle d'un type particulier d'écrit.

使用言語

日本語・英語以外

準備学習(予習・復習)

Aucune préparation préalable n'est attendue des étudiants suivant ce cours, seules l'assiduité et la participation en classe sont obligatoires.

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト	90 %	3 évaluations par semestre de cours
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	10 %	Assiduité et participation en classe
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

L'évaluation portera principalement sur la production individuelle de trois types d'écrit : un texte argumentatif sur un sujet de société, le résumé et l'analyse littéraire et la correspondance officielle.

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

L'enseignant donnera un feed-back général sur les productions écrites des étudiants à chaque séance et donnera des conseils individuels selon les besoins et les problèmes de chacun.

教科書コメント

Aucun manuel ne sera utilisé dans cette classe. L'enseignant fournira pour chaque séance une fiche de travail idoine.

履修上の注意

履修制限あり(25名)。/第1回目の授業に必ず出席すること。

講義コード	U3602081Z2	科目ナンバリング	036A401
講義名	◇フランス語圏文化演習(言語・翻訳)		
副題	日常言語について考える		
英文科目名	Seminar in French Language Cultures: (Language & Translation)		
担当者名	中尾 和美		
単位	4	配当年次	学部 3年～4年
時間割	通年 火曜日 3時限 西2-503		

授業概要

言葉は力である。同じ伝達内容であっても、言葉の使われ方によって相手の反応も異なる。この授業では、主として語用論的な視点から、日常を取り巻くフランス語の言語表現の考察を深めたい。具体的には言葉についての短い文章または論文を読むことで、言語学の第一歩となるような視点を養う。また、定期的に参加者の発表を予定し、それがレポート執筆につながるように指導する。学部と大学院の乗り合わせの授業なので、参加者の興味やレベルに応じて臨機応変に対応する予定である。

到達目標

フランス語の様々な表現を習得すること、言語分析を行うこと、ことば一般に対する興味を深めることを目指す。

授業内容

実施回	内容
第1回	授業の概要の説明
第2回	働きかけの表現(1)
第3回	働きかけの表現(2)
第4回	働きかけの表現(3)
第5回	人称代名詞 vousとtu
第6回	人称代名詞 je
第7回	人称代名詞 nous
第8回	呼びかけ(1)
第9回	呼びかけ(2)
第10回	呼びかけ(3)
第11回	授業発表
第12回	授業発表
第13回	授業発表
第14回	挨拶、感謝、謝罪表現(1)
第15回	挨拶、感謝、謝罪表現(2)
第16回	疑問文、命令文(1)
第17回	疑問文、命令文(2)
第18回	発話マーカ―(1)
第19回	発話マーカ―(2)
第20回	発話行為(1)
第21回	発話行為(2)
第22回	ポライトネス(1)
第23回	ポライトネス(2)
第24回	授業発表
第25回	授業発表
第26回	授業発表

授業方法

フランス語について講義をすると同時に、言語学の論文を抜粋で読み、議論していく演習方式。参加者の発表も適宜行う。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

論文講読では、担当箇所を調べるだけでなく、全体を読んで内容を理解するようにしておくこと。授業発表では、他の参加者の発表について活発に議論することが求められる。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	50 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

平常点(クラス参加、グループ作業の成果等):(テキストの予習、授業における参画、発表。)単なる出席ではなく、授業への参加態度も成績評価の対象とする。

この授業は、学部生・院生が履修できるが、大学院生はより高度な学修と成果が求められる。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

授業発表をレポート執筆に繋げる。

教科書コメント

授業で講読するテキストは、授業中に指示する。

参考文献

Quand dire, c'est faire, J.L. Austin, Éditions du Seuil, 1970

Les actes de langage dans le discours, C. Kerbrat-Orecchioni, Armand Colin, 2008

Politeness Some Universals In Language Usage, Brown & Levinson, Cambridge University Press, 1987

Merci professeur, B. Cerquiglini, Bayard, 2008

フランス語の発想, 春木仁孝・岩男考哲, くろしお出版, 2021

参考文献コメント

必要に応じて授業中に指示する。

履修上の注意

履修者制限あり(25名)。第1回目の授業に必ず出席すること

講義コード	U360209101	科目ナンバリング	036A402
講義名	フランス語圏文化演習(舞台・映像)A		
副題	映画批評を読む		
英文科目名	Seminar in French Language Cultures: (Theater & Film)		
担当者名	須藤 健太郎		
単位	4	配当年次	学部 3年～4年
時間割	通年 金曜日 4時限 西1-212		

授業概要

映画批評家セルジュ・ダネーの『映画日誌』をフランス語で講読します。『映画日誌』は哲学者ジル・ドゥルーズが序文を寄せたダネーの主著で、1981年から1986年にかけて日々『リベラシオン』紙に書いた膨大な量の記事を自身が厳選して編んだ批評集です。本年度は、前期は1983年、後期は1984年からいくつか映画評やメディア批評を選んで読んでみたいと思います。

到達目標

①ジャーナリスティックなフランス語を読む力をつける。②視聴覚メディアに対するリテラシーを高める。③優れた映画批評の読解を通して、映画について思考する力を養う。

授業内容

実施回	内容
第1回	前期ガイダンス
第2回	『映画日誌』1983年1つ目の記事(1)
第3回	『映画日誌』1983年1つ目の記事(2)
第4回	『映画日誌』1983年2つ目の記事(1)
第5回	『映画日誌』1983年2つ目の記事(2)
第6回	『映画日誌』1983年3つ目の記事(1)
第7回	『映画日誌』1983年3つ目の記事(2)
第8回	『映画日誌』1983年4つ目の記事(1)
第9回	『映画日誌』1983年4つ目の記事(2)
第10回	『映画日誌』1983年5つ目の記事(1)
第11回	『映画日誌』1983年5つ目の記事(2)
第12回	『映画日誌』1983年5つ目の記事(3)
第13回	前期まとめ
第14回	後期ガイダンス
第15回	『映画日誌』1984年1つ目の記事(1)
第16回	『映画日誌』1984年1つ目の記事(2)
第17回	『映画日誌』1984年2つ目の記事(1)
第18回	『映画日誌』1984年2つ目の記事(2)
第19回	『映画日誌』1984年3つ目の記事(1)
第20回	『映画日誌』1984年3つ目の記事(2)
第21回	『映画日誌』1984年4つ目の記事(1)
第22回	『映画日誌』1984年4つ目の記事(2)
第23回	『映画日誌』1984年5つ目の記事(1)
第24回	『映画日誌』1984年5つ目の記事(2)
第25回	『映画日誌』1984年5つ目の記事(3)
第26回	後期まとめ

授業計画コメント

受講者の関心や理解度によって、授業内容に変更が生じる可能性もある。

授業方法

対面の場合: 演習形式(教員が受講者の訳文を講評し、補足説明を行う)。
遠隔の場合: Web会議ツールを使用した同時配信型を採用し、対面授業と同様の進行方法をとる。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

課題箇所翻訳、およびそこで論じられている映画作品の鑑賞など背景知識に関する調査。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	100%	
その他(備考欄を参照)		

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

授業内で行う。

教科書コメント

必要に応じて適宜配布する。

参考文献コメント

必要に応じて適宜指示する。

履修上の注意

履修者数制限あり(25名)。第1回目の授業に必ず出席すること。

講義コード	U360209102	科目ナンバリング	036A402
講義名	フランス語圏文化演習(舞台・映像)B		
副題	演劇・オペラ・バレエはなぜ分かれたのか？		
英文科目名	Seminar in French Language Cultures: (Theater & Film)		
担当者名	横山 義志		
単位	4	配当年次	学部 3年～4年
時間割	通年 金曜日 3時限 北1-306		

授業概要

演劇はなぜ歌ったり踊ったりしないジャンルになったのでしょうか。この背景には、フランスで演劇、オペラ、バレエが異なるジャンルとして制度的に定められていったことがあります。その経緯を知ることは、フランス舞台芸術史の全容を把握するために不可欠なのですが、複数のジャンルをまたぐことになるので、総合的な研究がありません。この授業では、このようなジャンルの分離がどのようにして成立したのか、現代から時代をさかのぼって見ていきたいと思えます。参加者には小グループでフランス語の原典を訳し、テキストの文脈を調べたり想像したりして発表し、他の参加者からの質問に答えてもらいます。最後に講師からも質問やコメントをいたします。

フランスや日本で、各分野で活躍するゲストの方にも、その意味について一緒に考えていただく機会、舞台を見る機会もつくる予定です。フランス語のコミュニケーションに慣れていただくため、授業の一部をフランス語で行うかもしれませんが(その場合、なるべく翻訳も入れます)。あまり触れる機会がなかったかもしれない歴史的フランス語にもチャレンジしてみましょう(わからなくて当たり前ですし、私にも分からないことが多々ありますので、みんなと一緒に考えてみましょう)。読みたい資料、やりたいことなど、参加者からのご提案も歓迎です。

講師はフランスを中心とした西洋演劇史をバリで学び、研究をつづけつつ、劇場で働いています。すでに演劇史や舞台芸術の現場に興味がある方はもちろん、まだ触れたことがないという方の参加も歓迎いたします。

到達目標

- ・フランス舞台芸術史の概要を知ること
- ・フランス語のテキストを読解するためのツールを使いこなせるようになること。
- ・テキストと実際の作品との関係について考えられるようになること。
- ・資料を使いこなし、説得力のある発表を行えるようになること。
- ・参加者にとって有益な形でディスカッションに参加し、ファシリテーションをする能力を身につけること。

授業内容

実施回	内容
第1回	オリエンテーション
第2回	アヴィニオン演劇祭のプログラムを読む(1)演劇
第3回	アヴィニオン演劇祭のプログラムを読む(2)ダンス他
第4回	ゲストトーク(アヴィニオン演劇祭関係者を検討)
第5回	ルソー『ダランベールへの手紙』(1758)を読む
第6回	コンディヤック『人間認識起源論』(1746)を読む
第7回	コメディ＝フランセーズ設立の王令(1680)を読む
第8回	王立音楽アカデミー設立の公開勅許状(1672)を読む
第9回	モリエール『町人貴族』(1670)を読む
第10回	モリエール『町人貴族』(Benjamin Lazar演出, 2005)を見る(DVD)
第11回	ゲストトーク(フランス演劇関係者を検討)
第12回	王立オペラアカデミー設立の公開勅許状(1669)を読む
第13回	まとめ
第14回	「王立舞踊アカデミー設立の公開勅許状」(1661)を読む
第15回	「俳優の職業に関する宣言」(1641)を読む
第16回	アルポー『オルケゾグラフィ』(1589)を読む
第17回	ボージョワイユール『王妃のバレエ・コミック』(1581)を読む
第18回	ゲストトーク(ダンス関係者を予定)
第19回	トマス・アキナス『神学大全』を読む(1270年頃) or 発表
第20回	『アダム劇』を読む(12世紀後半) or 発表
第21回	観劇(検討中)
第22回	発表
第23回	発表
第24回	発表
第25回	発表
第26回	まとめ

授業計画コメント

参加者からの提案、ゲストの都合や講師の都合(海外招聘担当のため海外出張もあります)等により、授業の内容や日程が変更になる可能性があります。

授業方法

基本的には対面授業・演習形式ですが、都合によりzoom等を使って遠隔授業を行う可能性もあります。また、遠隔からゲストトーク等を行う可能性もあります。
参加者は3人前後の小グループで翻訳をし、テキストの意義を説明し、また他の参加者からの質問やコメントに答えます。ファシリテーションも参加者をお願いします。
ゲストをお招きする際には事前に参加者から質問を募集し、ゲストにお伺いしていきます。
フランス語圏の演劇・オペラ・バレエをテーマにした発表も募集します。
フランス語資料やフランス語話者に触れる機会をなるべく増やし、参加者のモチベーションや理解度に応じて、授業の一部をフランス語で行うかもしれません。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

毎回1時間程度、資料を読んで質問やコメントを書き込むなど、準備をしてきていただく必要があります。発表時などには数時間の準備を想定してください。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	20 %	学期末・学年末レポート
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	30 %	授業への参加・ファシリテーター
その他(備考欄を参照)	50 %	発表

成績評価コメント

- 1) 授業への参加度(年間で評価):30% ※質問やコメント、ファシリテーションをして、授業に貢献したかで評価します
- 2) 1学期末に小レポート:10% 評価基準:授業の理解度、選んだ主題の興味深さ、説得力
- 3) 発表:50% (※翻訳を含め、年間3回前後) 評価基準:議論の説得力、内容や資料の扱い方の適切さ
- 4) 2学期末に小レポート:10% 評価基準:授業の理解度、選んだ主題の興味深さ、説得力

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

発表やレポートについては、主に授業中にフィードバックをしていきます。

教科書コメント

資料は授業内で配付します

参考文献コメント

発表に際しては書籍や専門誌、フランス語資料の利用を推奨します

履修上の注意

履修者数制限あり(25名)。
第一回目の授業に必ず出席すること。
観劇あるいは映像鑑賞も行う予定です。
テーマやスケジュールは現時点で把握できている公演予定等にもとづいていますが、参加者からの提案やゲストの都合等、状況に応じて変更の可能性がありますのでご了承ください。

その他

SlackかMoodleのいずれかを使用する予定です。

講義コード	U3602091Z1	科目ナンバリング	036A402
講義名	◇フランス語圏文化演習(舞台・映像)		
副題	Aspects de la scene francophone		
英文科目名	Seminar in French Language Cultures: (Theater & Film)		
担当者名	DE VOS, Patrick		
単位	4	配当年次	学部 3年～4年
時間割	通年 木曜日 3時限 西1-307		

授業概要

この授業では、フランス、またフランス語圏で戦後以降の舞台芸術の軌跡を刻んだと思われる幾つかの作品を通して、演劇やダンスにおいて幾つか重要な傾向を考えていく。
一つは人形劇に限らない、演劇における「人形的なもの」を扱う。
もう一つは、いわゆる「ドキュメンタリー演劇」を取り上げる。
できる限り、映像を通して作品に接することを重視する。

到達目標

演劇を文学として読むのではなく、複数の素材によって、また空間や時間を作っていく芸術として如何にアプローチすべきか。また舞台作品というものは、それが生まれた歴史的、社会的、芸術的などの様々な文脈と合わせてその内容や意義を考えていく方法を学ぶ。また、使用言語としてフランス語も使うので、フランス語を勉強する機会にもなる。

授業内容

実施回	内容
第1回	イントロダクション。授業の内容や方法の説明。
第2回	人形劇の大衆的な系譜。
第3回	ディデロにおける観念としての人形。
第4回	アントナン・アルトーがバリ演劇で観た踊る人形。
第5回	60年代の人形の再来。
第6回	劇中劇の人形劇。『1789』の場合。
第7回	超人形の発想。
第8回	演技のユートピアとしての人形。
第9回	俳優が挑む人形。太陽劇団の試み。
第10回	太陽劇団の試み, その2。
第11回	人形に取り憑かれた俳優。Giselle Vienneの世界。
第12回	学生の発表。
第13回	まとめ。
第14回	なぜ、ドキュメンタリー演劇なのか。
第15回	ドキュメンタリー演劇の歴史的な系譜と理論。
第16回	『Rwanda 94』の方法。
第17回	『Rwanda 94』の方法, その2。
第18回	『Rwanda 94』の方法, その3。
第19回	Milo Rau の仕事。
第20回	『La Reprise』における事件の再現。
第21回	『La Reprise』における事件の再現その2。
第22回	人形がドキュメンタリーに出会う場合。『Kamp』の場合。
第23回	『Kamp』の場合, その2。
第24回	学生の発表。
第25回	学生の発表。
第26回	まとめ。

授業計画コメント

以上のスケジュールでは場合によって扱う項目の順番などの変更がある可能性もある。

授業方法

基本的には、対面で授業を行う。(遠隔授業の形態を排除しないが、それは例外的な必要に応じるための場合。)

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

準備学習(予習・復習)

クラス参加は、発表だけではなく、毎回、授業の内容についてコメントを提出する形もとる。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	50 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

クラス参加は、発表だけではなく、毎回、授業の内容についてコメントを提出する形もとる。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

各回の授業についてコメント(質問, 指摘, 提案も含む)をメールで教師に届ける。

参考文献

演劇の教科書,C.ピエ、C.トリオー,国書刊行会,2009

演劇学のキーワード,佐和田敬司他,ペリカン社,2007

履修上の注意

履修者数制限あり。(25名)

第1回目の授業に必ず出席のこと。

講義コード	U360210101	科目ナンバリング	036A403
講義名	フランス語圏文化演習(広域文化)A		
副題	象徴主義の戯曲を読む		
英文科目名	Seminar in French Language Cultures: (Integrated Cultural Studies)		
担当者名	上杉 未央		
単位	4	配当年次	学部 3年～4年
時間割	通年 火曜日 3時限 中央-402		

授業概要

象徴主義というとまず詩作品が思い浮かぶかもしれませんが、演劇作品にも名作が揃っています。本授業では、象徴主義の演劇作品のなかから、トリスタン伝説との関連をもつ作品、すなわち、三角関係や不義密通が主題となる作品を取り上げます。第1学期は、教員による講義で『トリスタン物語』と、ワーグナーの『トリスタンとイゾルデ』を確認した後、ベルギーの象徴派の劇作家であるモーリス・メーテルランク(1862-1949)の代表作『ペレアスとメリザンド』を精読します。フランス語のテキストとしては比較的平易であるため、ある程度のスピード感を持って訳読を進めます。第2学期は、象徴主義文学の後期に属するフランスの劇作家ポール・クローデル(1868-1955)の戯曲『真昼に分かつ』の抜粋を読みます。こちらのフランス語はなかなか手ごわいですが、場面を選び、ゆっくりと読み解きます。舞台の映像も参照する予定です。

到達目標

- ・フランス語の文章を、文法の知識、辞書を使いながら読み解くことができる。
- ・テキストの背景にあるフランス19世紀末～20世紀初頭の文学思潮について正確な知識を持つことができる。
- ・あらゆる作品の中に共通する(本授業の場合はトリスタン伝説)型を見出し、その型の変奏について論じることができる。

授業内容

実施回	内容
第1回	ガイダンス
第2回	講義:象徴主義文学について
第3回	講義:ワーグナーのオペラ『トリスタンとイゾルデ』と象徴主義演劇
第4回	訳読『ペレアスとメリザンド』(1)
第5回	訳読『ペレアスとメリザンド』(2)
第6回	訳読『ペレアスとメリザンド』(3)
第7回	訳読『ペレアスとメリザンド』(4)
第8回	訳読『ペレアスとメリザンド』(5)
第9回	訳読『ペレアスとメリザンド』(6)
第10回	訳読『ペレアスとメリザンド』(7)
第11回	訳読『ペレアスとメリザンド』(8)
第12回	訳読『ペレアスとメリザンド』(9)
第13回	第1学期まとめ
第14回	訳読『ペレアスとメリザンド』(10)
第15回	訳読『ペレアスとメリザンド』(11)
第16回	『ペレアスとメリザンド』の総括、『真昼に分かつ』概説
第17回	訳読『真昼に分かつ』(1)
第18回	訳読『真昼に分かつ』(2)
第19回	訳読『真昼に分かつ』(3)
第20回	訳読『真昼に分かつ』(4)
第21回	訳読『真昼に分かつ』(5)
第22回	訳読『真昼に分かつ』(6)
第23回	訳読『真昼に分かつ』(7)
第24回	訳読『真昼に分かつ』(8)
第25回	訳読『真昼に分かつ』(9)
第26回	第2学期まとめ

授業方法

演習形式(対面)

学生が音読・訳読を行い、教員がそれにコメントや補足説明をつけるかたちで授業を進行します。訳読した場面のオペラ、あるいは演劇の映像を鑑賞し、ディスカッションする時間も設けます。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

各回の予習・復習には80分程度の学習が必要になります。とくに訳読の担当者(発表者)については、120分程度の準備時間が想定されます。担当者以外も、授業で扱う範囲についてはあらかじめテキストを読んでおいてください。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	40 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	60 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

各学期1回ずつ、レポートを課します。平常点(授業への出席状況、受講態度、担当時の訳文作り等)を重視します。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

レポートにはコメントをつけて返却します。

教科書

Pélieas et Mélisande:Folio théâtre,Maurice Maeterlinck,Folio,2020,9782072866111

Partage de midi:Folio théâtre,Paul Claudel,Folio,1994,9782070388851

教科書コメント

第2学期に使用する『真昼に分かつ』に関しては教員の方で抜粋を用意しますが、テキストの全体が欲しいという方は購入してください。詳細は初回の授業時に説明します。

参考文献コメント

参考文献に関しては初回授業時に案内します。

履修上の注意

履修者数制限あり。(25名)
第1回目の授業に必ず出席のこと。

講義コード	U360210102	科目ナンバリング	036A403
講義名	フランス語圏文化演習(広域文化)B		
副題	都市と文学		
英文科目名	Seminar in French Language Cultures: (Integrated Cultural Studies)		
担当者名	彦江 智弘		
単位	4	配当年次	学部 3年～4年
時間割	通年 金曜日 2時限 西1-204		

授業概要

私たちの生活の物理的環境として無視し難い重みを持つものに都市がある。実際、私たちにとって身近な東京という都市も日々その姿を変え、私たちの生活の舞台となるだけでなく、私たちの生の様々な側面に影響を及ぼしている。このような都市はいかに成立し、いかなる問題を抱え、どのような成長を遂げてきたのだろうか？

その一方で、文学や芸術はこのような都市という環境とはたしてどのような関係を取り結んできたのだろうか？ 文学作品や芸術作品の多くが人間社会を対象としている以上、都市がそこに姿を表さないことはむしろ稀であり、ある意味、都市は文学や芸術にとって重要なテーマを構成してきた。実際、文学作品や芸術作品は都市を舞台背景として取り入れるという以上に、都市の変化やそこに暮らす人間たちの営みや感性の揺らぎを観察し、都市という現象を探求する装置としても発展してきた。

とりわけフランス文学においては第2帝政期に推進されたオスマン男爵によるパリ改造の有り様を散文詩で捉えたボードレールを始めとして、ランボーやゾラなど文学を通じた都市の考察を可能にする重要なテキストが数多く存在している。

本授業では、第1学期では私たちにとって都市とは何かを考える手がかりとして、様々な都市論を取り上げる。第2学期では、第1学期での学びを踏まえ、19世紀から20世紀初頭にかけてのフランスの都市の発展を辿る。これはフランスの都市ということでは、近代都市が成立し、オスマンによるパリ改造を経て、ル・コルビュジエに代表されるモダニズムの建築・都市計画が隆興する時代である。ここからさらに文学作品や芸術作品における都市という問題にアプローチしていく予定。

到達目標

主にフランスの都市に関連する様々な都市論を学ぶことで都市を論じる際の基盤となる知識を身につけ、都市を考察するための基礎的な分析力を身につけることができる。

文学作品を都市という観点から読み解くスキルを習得し、現実の都市に潜む様々な問題点を考察し、都市について他者と議論ができるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	イントロダクション
第2回	都市とは何か？
第3回	問題としての都市
第4回	都市と資本
第5回	都市と排除
第6回	都市と権力
第7回	都市と公共
第8回	都市と日常の実践
第9回	都市とユートピア
第10回	社会住宅の誕生
第11回	郊外の変容
第12回	受講者による研究発表
第13回	振り返り
第14回	イントロダクション
第15回	近代以前のフランスの都市
第16回	オスマンのパリ改造
第17回	都市と民衆
第18回	19世紀の建築
第19回	モダニズムの建築と都市計画
第20回	19世紀の絵画と都市
第21回	バルザックにおけるパリ
第22回	ゾラにおけるパリ
第23回	文学が描く郊外
第24回	都市と音
第25回	受講者による研究発表
第26回	総括

授業計画コメント

授業の進捗状況、参加者の関心に応じて適宜授業内容を変更することがあります。

授業方法

参加者の発表を起点とする討論形式を中心に、適宜講義を交えて授業を進めます。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

授業前に指定された資料を読み込み、これまでの授業内容との関連に注意しながら議論の際のコメント等をまとめておく(1~2時間)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	50 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	
その他(備考欄を参照)		

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

演習形式の授業のため授業内でフィードバックを行う。

参考文献

パリの肖像：19-20世紀,ベルトラン・マルシャン,日本経済評論社,2010,9784818820944

パリ：モダニティの首都,デヴィッド・ハーヴェイ,青土社,2017, 9784791769872

反乱する都市：資本のアーバナイゼーションと都市の再創造,デヴィッド・ハーヴェイ,作品社,2013,9784861824203

都市が壊れるとき：郊外の危機に対応できるのはどのような政治か,ジャック・ドンズロ,人文書院,2012,9784409230480

安全・領土・人口：コレージュ・ド・フランス講義1977-1978年度,ミシェル・フーコー,筑摩書房,2007,9784480790477

参考文献コメント

上記以外は適宜授業で指示する。

履修上の注意

履修者数制限あり(25名)。第1回目の授業に必ず出席すること。

その他

演習形式の授業のため、参加者は資料作りや適切な発表の進め方、また討論における建設的なコメントの作法を実践的に身につけるといった観点から積極的な態度で授業に臨むことが求められます。

講義コード	U360211101	科目ナンバリング	036A404
講義名	フランス語圏文化演習(文学・思想)A		
副題	歴史と文学の交差点		
英文科目名	Seminar in French Language Cultures: (Literature & Theory)		
担当者名	一丸 禎子		
単位	4	配当年次	学部 3年～4年
時間割	通年 木曜日 4時限 中央-503		

授業概要

フランス17世紀の歴史的出来事フロンドの乱(1648-1653)とマザリナード文書について観察しつつ、文学と歴史、社会の交差点を考察します。フロンドの乱はルイ14世の少年期に起きた内乱ですが、皆さんにはあまり馴染みがないと思われますので、最初にルイ13世の時代を描いたA.デュマ父の小説『三銃士』を導入に使用します。授業ではフランス国立図書館BnFの電子図書館Gallica等、インターネット上のデジタルコンテンツを利用します。

到達目標

17世紀フランスという領域にとどまらず、歴史的出来事との交差点に生じる文学事象を理解するために必要な知識を探す方法、そのためのツールの使い方を身につけます。また、そうして考察を深めた結果を、発表形式でアウトプットできるようにします。

授業内容

実施回	内容
-----	----

- | | |
|------|---|
| 第1回 | イントロダクション/授業展開の説明/17世紀フランスについて |
| 第2回 | ルイ13世の時代/史実と歴史創作 A.デュマ父『三銃士』(1)
19世紀A.デュマ父による歴史小説 |
| 第3回 | ルイ13世の時代/史実と歴史創作 A.デュマ父『三銃士』(2)
Web上のテキストを探す/あらすじ/実在の人物ダルタニャン |
| 第4回 | ルイ13世の時代/史実と歴史創作 A.デュマ父『三銃士』(3)
A.デュマ父による描写(フランス語テキスト)/王と王妃トリシュリユール枢機卿 |
| 第5回 | ルイ13世の時代/史実と歴史創作 A.デュマ父『三銃士』(4)
映画化された『三銃士』 |
| 第6回 | ルイ13世の時代/史実と歴史創作 A.デュマ父『三銃士』(5)
映画化された『三銃士』 |
| 第7回 | ルイ14世の時代/フロンドの乱(1648-1653)の背景(1)
王と王妃とマザラン枢機卿 |
| 第8回 | ルイ14世の時代/フロンドの乱(1648-1653)の背景(2)
三十年戦争と増税とパリ高等法院 |
| 第9回 | ルイ14世の時代/フロンドの乱(1648-1653)の背景(3)
Wikipediaの記述を検証する |
| 第10回 | ルイ14世の時代/フロンドの乱(1648-1653)とマザリナード文書(1)
マザリナード文書とは |
| 第11回 | ルイ14世の時代/フロンドの乱(1648-1653)とマザリナード文書(2)
メディア |
| 第12回 | ルイ14世の時代/フロンドの乱(1648-1653)とマザリナード文書(3)
印刷術と世論の形成: SNSと比較してみよう(討論) |
| 第13回 | 前期のふりかえりと理解度の確認 |
| 第14回 | ルイ14世の時代/史実と歴史創作 A.デュマ父『二十年後』(1)
Web上のテキスト/あらすじ/登場人物 |
| 第15回 | ルイ14世の時代/史実と歴史創作 A.デュマ父『二十年後』(2)
フロンドの乱/マザラン枢機卿/ダルタニャン |
| 第16回 | ルイ14世の時代/史実と歴史創作 A.デュマ父『二十年後』(3)
イギリス清教徒革命/チャールズ1世の処刑 |
| 第17回 | ルイ14世の時代/史実と歴史創作 A.デュマ父『二十年後』(4)
ボーフォール公爵/ミュージカル『Le Roi Soleil』 |
| 第18回 | フロンドの乱とマザリナード 書き手 |
| 第19回 | フロンドの乱とマザリナード 作家の誕生 |
| 第20回 | フロンドの乱とマザリナード パリの印刷・書籍業者 (1) |
| 第21回 | フロンドの乱とマザリナード パリの印刷・書籍業者 (2) |
| 第22回 | フロンドの乱とマザリナード コレクター (1) |
| 第23回 | フロンドの乱とマザリナード コレクター (2) |
| 第24回 | マザリナード文書 Wikipediaの記述を批判的に考察する(討論) |

第25回 全体のまとめ

第26回 理解度の確認

授業計画コメント

シラバスに記載されている計画は、履修者のフランス語習熟度、関心、資料調査能力などにより、授業開始後に調整します。

授業方法

演習形式。発表とディスカッションにより展開します。授業中にランダムに意見を聞いていくこともします。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

履修者全員にとって次の授業に必要な準備は前もって提示します(教科書の何ページを読んでおく、〇〇について調べておく等)。発表担当者は(個人あるいはグループで)スライドを作成し、時間内にまとめられるように原稿を準備します。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	50 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

発表、授業への積極的な取り組み、質問への的確な答えなどを総合的に平常点に加えます。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

教室もしくはMoodle。

教科書

フロンドの乱とマザリナード, 一丸禎子, マザリナード・プロジェクト, 初, 2023, 978-4-909411-21-1

教科書コメント

【重要】この書籍は一般書店では購入できません。フランス図書のみでの販売です。

<https://www.francetosho.com/>

参考文献コメント

必要に応じて、その都度授業時間内に提示します。

履修上の注意

インターネットや図書館で資料を探す必要があります。また宿題も出るので、授業時間外にも時間的余裕が必要です。

履修者数制限あり。(25名)

第1回目の授業に必ず出席のこと。

その他

mazarinades.org (フランス語・マザリナード文書のオンライン・デジタル・コーパス)

mazarinades.jp (日本語・参考文献・年表)

講義コード	U360211102	科目ナンバリング	036A404
講義名	フランス語圏文化演習(文学・思想)B		
副題	フランス詩と音楽		
英文科目名	Seminar in French Language Cultures: (Literature & Theory)		
担当者名	中山 慎太郎		
単位	4	配当年次	学部 3年～4年
時間割	通年 木曜日 3時限 西1-303		

授業概要

ラヴェル、ドビュッシー、フォーレ、プーランク・・・数多くの作曲家がフランスの詩に曲をつけてきました。本授業では、歌曲になった詩作品を読みつつ、詩と音楽の関係について考えていきたいと思います。
対象となるのは主に、ユゴー、ボードレール、ヴェルレーヌ、マラルメ、コクトー、アポリネール、エリュアールといった19世紀、20世紀の詩人ですが、シャンソンやポップスも扱う予定です。

到達目標

1. 詩作品に活用されている韻律、音の効果、レトリックを分析し、その独自性を図ることができる。
2. 他の文学作品(他ジャンルも含む)や文化事象を参照しながら、詩作品について論じることができる。

授業内容

実施回	内容
第1回	ガイダンス:フランス詩と音楽 授業計画について
第2回	韻律分析の方法1
第3回	韻律分析の方法2
第4回	韻律分析の方法3
第5回	韻律分析の方法4
第6回	詩の分析と歌曲の鑑賞
第7回	詩の分析と歌曲の鑑賞
第8回	詩の分析と歌曲の鑑賞
第9回	詩の分析と歌曲の鑑賞
第10回	詩の分析と歌曲の鑑賞
第11回	詩の分析と歌曲の鑑賞
第12回	詩の分析と歌曲の鑑賞
第13回	前期のまとめ
第14回	韻律分析の復習
第15回	韻律分析の復習
第16回	詩の分析と歌曲の鑑賞
第17回	詩の分析と歌曲の鑑賞
第18回	詩の分析と歌曲の鑑賞
第19回	詩の分析と歌曲の鑑賞
第20回	詩の分析と歌曲の鑑賞
第21回	詩の分析と歌曲の鑑賞
第22回	詩の分析と歌曲の鑑賞
第23回	詩の分析と歌曲の鑑賞
第24回	詩の分析と歌曲の鑑賞
第25回	レポートについて
第26回	まとめ

授業計画コメント

授業の詳細は初回の授業で指示します。ある程度の読む作品は中山が提示しますが、受講者の興味にあわせて変更する予定です。

授業方法

演習形式。
講師の解説だけでなく、受講者の輪読と発表、及びディスカッションによって授業を進めていきます。発表に関してはグループ発表を取り入れる場合もあります。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

訳読や発表の担当者以外も配布資料の必要部分をすべて読み、自分なりの解釈を準備しておくこと。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	40 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	60 %	発表含む
その他(備考欄を参照)		

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

口頭発表の際にコメントをします。また、レポートについては希望者にコメントをします。

教科書コメント

プリント配布

参考文献コメント

授業内に指示します。

履修上の注意

履修者数制限あり(25名)。
第1回目の授業に必ず出席のこと。

その他

正確にフランス語を読めてさえいれば、解釈に「正解」、「不正解」はありません。とくに「名作」として残っている詩は多様な解釈が出来る場合が多いので、ぜひ、皆さんがどのように読んだのか聞かせてください。
また、詩を読んでいると「何を言っているのか分からない」箇所も出てくると思いますが、それは、文化も時代も違うものなので当たり前のことです。授業では「分からない」ことが「分かる」ようになる楽しさと、「分からない」ことについてじっくり考え、皆で話し合う楽しみを感じてほしいと思います。

講義コード	U360211103	科目ナンバリング	036A404
講義名	フランス語圏文化演習(文学・思想)C		
副題	ユゴー『笑う男』を読む		
英文科目名	Seminar in French Language Cultures: (Literature & Theory)		
担当者名	中野 芳彦		
単位	4	配当年次	学部 3年～4年
時間割	通年 水曜日 1時限 西1-103		

授業概要

ヴィクトル・ユゴー(1802-1885)と言えば、その長編小説『ノートル=ダム・ド・パリ』(1831)や『レ・ミゼラブル』(1862)の名前とともに記憶している人は多いでしょう。しかし実際には(同時代のほかの何人かの作家と同じように)、この「小説家」は詩・戯曲・評論・政治パンフレットなど、あらゆるジャンルで執筆活動を行ないました。実際、ユゴーがロマン主義文学のリーダーと見なされる契機となったのは戯曲『エルナニ』(1830)の上演を通してです。本授業では小説『笑う男』(1869)の重要箇所を講読しつつ、小説にとどまらないユゴーの全体像を把握することを目指します。『笑う男』の舞台は、1700年前後のイギリスです。ユゴーは『ノートル=ダム・ド・パリ』、『レ・ミゼラブル』、『海に働く人々』(1866)を「anankè(宿命)」をめぐる三部作と位置づけ、つづく『笑う男』、『1789年以前のフランス』(この作品は実現しませんでした)、『九十三年』(1874)を「社会研究」三部作として構想していました。『笑う男』の元々のタイトルは「1688年以降のイギリス」です。スチュアート朝末期のイギリスを描くことで、王政から立憲主義へという社会体制の「進歩」を浮き彫りにしようとするユゴーは試みたわけです。この小説について考察することで、ユゴーのほかの有名小説もより良く理解する手掛かりとなるでしょう。

じつはこの作品は、その「前衛性」が災いして、出版当初はあまり読者には受け入れられませんでした。しかしその新しさと美しさは、20世紀以降再発見されてきました。とりわけ有名なのは映画化作品『笑ふ男』(パウル・レニ監督)ですが、2018年にはミュージカル『笑う男 The Eternal Love -永遠の愛-』も発表されました。授業では『笑う男』を原作とする翻案作品を2本鑑賞する予定です。ユゴーのみならずロマン主義文学の特色とその背景についても知識と関心を深めていきましょう。

到達目標

- ・フランス語で書かれたテキストを読解し、その内容を把握することができる。
- ・テキストの背景にあるフランス19世紀の文学思潮について正確な知識を持つことができる。

授業内容

実施回	内容
第1回	イントロダクション/ユゴーについて
第2回	『クロムウェル』序文と『エルナニ』に見るユゴーの文学
第3回	『笑う男』の訳読・全体討議
第4回	『笑う男』の訳読・全体討議
第5回	『笑う男』の訳読・全体討議
第6回	『笑う男』の訳読・全体討議
第7回	『笑う男』の訳読・全体討議
第8回	映画『笑ふ男』(1928年, パウル・レニ監督)鑑賞(1)
第9回	映画『笑ふ男』(1928年, パウル・レニ監督)鑑賞(2)
第10回	『笑う男』の訳読・全体討議
第11回	『笑う男』の訳読・全体討議
第12回	『笑う男』の訳読・全体討議
第13回	第1学期のまとめ・達成度の確認
第14回	第1学期の復習
第15回	『笑う男』の訳読・全体討議
第16回	『笑う男』の訳読・全体討議
第17回	『笑う男』の訳読・全体討議
第18回	『笑う男』の訳読・全体討議
第19回	『笑う男』の訳読・全体討議
第20回	映画『笑う男』(2012年, ジャン=ピエール・アメリス監督)鑑賞
第21回	『笑う男』の訳読・全体討議
第22回	『笑う男』の訳読・全体討議
第23回	『笑う男』の訳読・全体討議
第24回	『笑う男』の訳読・全体討議
第25回	『笑う男』の訳読・全体討議
第26回	まとめ・達成度の確認

授業計画コメント

上記の授業日程はあくまで目安となります。履修者との相談によって進度は変更の可能性があります。

授業方法

対面授業:演習

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

各回の予習・復習には90分程度の学習が必要になります。とくに訳読の担当者(発表者)については、120分程度の準備時間が想定されます。担当者以外も、授業で扱う範囲についてはあらかじめテキストを読解しておいてください。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	
その他(備考欄を参照)	50 %	記述式の授業内テストを複数回実施します

成績評価コメント

授業内テストは学期ごとに1~2回程度実施することを予定しています。議論への参加度や発表の質が、平常点として評価の対象となります。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

試験はコメントを付して返却する。

教科書

L'Homme qui rit:Le Livre de poche,Victor Hugo,Le Livre de poche,2002,978-2253160823

参考文献

海に働く人々:ユゴー文学館 第8巻,ヴィクトル・ユゴー,潮出版社,2001,978-4-267-01568-7

九十三年:ユゴー文学館 第6巻,ヴィクトル・ユゴー,潮出版社,2000,978-4-267-01566-3

レ・ミゼラブル:平凡社ライブラリー,ヴィクトル・ユゴー,平凡社,2019,9784582768923

参考文献コメント

『ユゴー文学館』(潮出版社、全10巻)には小説の他にも詩や戯曲や評論が収録されています。授業内でも紹介する場合がありますが、図書館などでぜひ一度手に取ってみてください。

履修上の注意

履修者数制限あり(25名)。第1回目の授業に必ず出席のこと。

その他

Moodleを連絡方法として用います。

講義コード	U3602111Z1	科目ナンバリング	036A404
講義名	◇フランス語圏文化演習(文学・思想)		
副題	19世紀自然主義小説読解		
英文科目名	Seminar in French Language Cultures: (Literature & Theory)		
担当者名	中条 省平		
単位	4	配当年次	学部 3年～4年
時間割	通年 木曜日 2時限 北1-404		

授業概要

エミール・ゾラの小説『ナナ』を取りあげ、そのフランス語原文を精細に読み解くとともに、時代背景や思想的問題についても研究をおこなう。

到達目標

辞書を引きながらゾラの原文をある程度の速度で読みこなせるようになること。また、19世紀フランス文化の諸相について確かな知識をもつようになること。

授業内容

実施回	内容
第1回	授業内容の概説と参加者の関心対象の把握
第2回	参加者による本文の訳読、教師による解説、質疑応答
第3回	〃
第4回	〃
第5回	〃
第6回	〃
第7回	〃
第8回	〃
第9回	〃
第10回	〃
第11回	〃
第12回	〃
第13回	まとめ
第14回	前期の講義内容の確認
第15回	参加者による本文の訳読、教師による解説、質疑応答
第16回	〃
第17回	〃
第18回	〃
第19回	〃
第20回	〃
第21回	〃
第22回	〃
第23回	〃
第24回	〃
第25回	〃
第26回	総括

授業方法

原則として対面による演習

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

毎回、数ページを細かく読み解き、教師の質問に答えられるように準備すること。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		

学期末試験(第1学期)

学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	50 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

上記の割合はあくまでも目安である。

教室においても、レポートにおいても、参加者の態度の真摯さ、言述の論理性、発想の独自性、下準備の周到さが、主な評価の対象となる。

また、この授業は、大学院生と学部生がともに履修できるが、大学院生にはより高度な学修と成果が求められる。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

提出されたレポートにはコメントを付して返却する。

教科書コメント

『ナナ』の原文は初回にプリントで配布する。

参考文献コメント

参考文献を収集することは研究の基本である。参加者各自が自分の関心に則した参考文献表を日々充実させることが求められる。

履修上の注意

履修者数制限あり。(25名)

第1回目の授業に必ず出席のこと。

講義コード	U3602111Z2	科目ナンバリング	036A404
講義名	◇フランス語圏文化演習(文学・思想)		
副題	モラリスト研究		
英文科目名	Seminar in French Language Cultures: (Literature & Theory)		
担当者名	志々見 剛		
単位	4	配当年次	学部 3年～4年
時間割	通年 水曜日 3時限 仏文院生室		

授業概要

フランスの「モラリスト」と総称される作家たちの作品を取り上げます(モンテーニュの『エッセー』、ラ・ロシュフーコーの『箴言集』、パスカルの『パンセ』、ラ・ブリュイエールの『人さまざま』など)。彼らが人間をどのような観点からとらえているか、彼らの著作に見られる断章的・断片的な形式にどのような意味があるか、などを、広く検討したいと思います。

到達目標

具体的なテキストの読解、分析を元に、モラリストのあり方を理解すること。それを通じて、広く文学作品を論じるうえでの知見を養うこと。

授業内容

実施回	内容
-----	----

第1回	イントロダクション
第2回	テキストの読解
第3回	テキストの読解
第4回	テキストの読解
第5回	テキストの読解
第6回	テキストの読解
第7回	テキストの読解
第8回	テキストの読解
第9回	テキストの読解
第10回	テキストの読解
第11回	テキストの読解
第12回	テキストの読解
第13回	テキストの読解
第14回	テキストの読解
第15回	テキストの読解
第16回	テキストの読解
第17回	テキストの読解
第18回	テキストの読解
第19回	テキストの読解
第20回	テキストの読解
第21回	テキストの読解
第22回	テキストの読解
第23回	テキストの読解
第24回	テキストの読解
第25回	テキストの読解
第26回	テキストの読解

授業計画コメント

上に挙げた四人の著作の抜粋を、順にみていきたいと考えています。順序や配分については、授業の進み方や参加者の関心に応じて調整したいと思います。

授業方法

対面授業(演習)

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

担当がある場合は、事前の準備(1時間)

それ以外の場合は、テキストに目を通しておく(30分)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	30 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	70 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

院生と学部生とで、評価の基準は異なります。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

コメントして返却。

教科書コメント

コピーを配布。

参考文献コメント

それぞれの作品の日本語訳も含め、授業中に紹介します。

履修上の注意

履修者数制限あり。(25名)
第1回目の授業に必ず出席のこと。

講義コード	U360300101	科目ナンバリング	036B405
講義名	論文指導演習A		
英文科目名	Practice in thesis writing		
担当者名	横川 晶子		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第1学期 火曜日 4時限 西2-306		

授業概要

4年次に制作する卒業論文の準備段階として、論理的な文章の書き方、論文の形式、論文の作成方法を実践的に学びます。また、フランス語圏の文化について関心のあるテーマを見つけ、考察する方法を学びます。さらに、論文を執筆する上で知っておくべき研究倫理を学びます。

到達目標

論文作成に必要な知識と技術を習得し、多角的な知見にもとづいて文学・芸術作品や文化事象の問題点を探り出し、論考の過程を適切に表現する力を身につけ、卒業論文などを執筆できるようになります。

授業内容

実施回	内容
第1回	授業内容及び授業の進め方について
第2回	日本語の表記に関する基本的な事柄
第3回	論文のテーマと問いについて
第4回	参考文献の探し方
第5回	参考文献表の書き方
第6回	論理的な文章の書き方に関する注意点
第7回	引用について
第8回	注の作成について
第9回	テキスト批評の方法
第10回	論文の構成について
第11回	序論及び結論の書き方
第12回	フランス語の要旨の書き方
第13回	総括

授業方法

毎回の授業で授業内容に即したプリントを配布し、具体的な例をあげながら説明をおこないます。授業内容に沿った課題を複数回出し、提出された課題をもとに補足説明や個人的なアドバイスをおこないます。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

授業中に配布した資料をよく読んで理解すること。授業期間中に複数回課題を出すので、締切日までに提出すること。(2～3時間)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	90 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	10 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

論文作成のルールを身につけ、卒業論文にふさわしいテーマについての論考を適切に表現できることを評価します。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

提出された課題はコメントを付して返却、または授業内で説明をおこないます。個別にアドバイスを与えることもあります。

教科書コメント

授業中に随時プリントを配布します。

参考文献コメント

必要に応じて授業中に指示します。

履修上の注意

履修者数制限あり。第1回目の授業に必ず出席すること。

履修できるのは、主に卒業論文、卒業翻訳、卒業演習を履修する資格がある学生。「論文指導演習B」「論文指導演習C」との重複履修は不可。

その他

LMSにより課題を提出してもらうので、PC環境を整えておくこと。個別の連絡はメールで対応します。

講義コード	U360300102	科目ナンバリング	036B405
講義名	論文指導演習B		
英文科目名	Practice in thesis writing		
担当者名	横川 晶子		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第2学期 火曜日 4時限 西2-306		

授業概要

4年次に制作する卒業論文の準備段階として、論理的な文章の書き方、論文の形式、論文の作成方法を実践的に学びます。また、フランス語圏の文化について関心のあるテーマを見つけ、考察する方法を学びます。さらに、論文を執筆する上で知っておくべき研究倫理を学びます。

到達目標

論文作成に必要な知識と技術を習得し、多角的な知見にもとづいて文学・芸術作品や文化事象の問題点を探り出し、論考の過程を適切に表現する力を身につけ、卒業論文などを執筆できるようになります。

授業内容

実施回	内容
第1回	授業内容及び授業の進め方について
第2回	日本語の表記に関する基本的な事柄
第3回	論文のテーマと問いについて
第4回	参考文献の探し方
第5回	参考文献表の書き方
第6回	論理的な文章の書き方に関する注意点
第7回	引用について
第8回	注の作成について
第9回	テキスト批評の方法
第10回	論文の構成について
第11回	序論及び結論の書き方
第12回	フランス語の要旨の書き方
第13回	総括

授業方法

毎回の授業で授業内容に即したプリントを配布し、具体的な例をあげながら説明をおこないます。授業内容に沿った課題を複数回出し、提出された課題をもとに補足説明や個人的なアドバイスをおこないます。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

授業中に配布した資料をよく読んで理解すること。授業期間中に複数回課題を出すので、締切日までに提出すること。(2～3時間)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	90 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	10 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

論文作成のルールを身につけ、卒業論文にふさわしいテーマについての論考を適切に表現できることを評価する。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

提出された課題はコメントを付して返却、または授業内で説明をおこないます。個別にアドバイスを与えることもあります。

教科書コメント

授業中に随時プリントを配布します。

参考文献コメント

必要に応じて授業中に指示します。

履修上の注意

履修者数制限あり。第1回目の授業に必ず出席すること。

履修できるのは、主に3年次の学生。「論文指導演習A」「論文指導演習C」との重複履修は不可。

その他

LMSにより課題を提出してもらうので、PC環境を整えておくこと。個別の連絡はメールで対応します。

講義コード	U360300103	科目ナンバリング	036B405
講義名	論文指導演習C		
英文科目名	Practice in thesis writing		
担当者名	土橋 友梨子		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第2学期 火曜日 4時限 西2-205		

授業概要

4年次に制作する卒業論文の準備段階として、論理的な文章の書き方、論文の形式、論文の作成方法を実践的に学ぶ。また、フランス語圏の文化について関心のあるテーマを見つけ、考察する方法を学ぶ。さらに、論文を執筆する上で知っておくべき研究倫理を学ぶ。

到達目標

論文作成に必要な知識と技術を習得し、多角的な知見にもとづいて文学・芸術作品や文化事象の問題点を探り出し、論考の過程を適切に表現する力を身につけ、卒業論文などを執筆できるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	オリエンテーション:授業の進め方について
第2回	論文の構造を分析する
第3回	論文にふさわしい日本語表記を学ぶ
第4回	テーマを探す・絞る
第5回	参考文献を探す
第6回	参考文献一覧を作る
第7回	論文の構成を考える
第8回	問いの立て方を学ぶ
第9回	引用をする
第10回	注の表記の仕方を学ぶ
第11回	序論・結論を書く
第12回	レジュメを書く
第13回	総括

授業方法

毎回の授業で授業内容に即したプリントを配布し、具体的な例をあげながら説明をおこなう。授業内容に沿ったレポート課題を複数回出し、提出されたレポートをもとに補足説明や個人的なアドバイスをおこなう。グループワークをして、学生同士で評価し合う機会もある。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

授業中に配布した資料をよく読んで理解すること。授業期間中に複数回レポート課題を出すので、締切日までに提出すること。(2～3時間)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	90 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	10 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

論文作成のルールを身につけ、卒業論文にふさわしいテーマについての論考を適切に表現できることを評価する。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

提出されたレポートはコメントを付与して返却、または授業内で説明を行う。個別にアドバイスを与えることもある。

教科書コメント

授業中に随時プリントを配布する。

参考文献コメント

必要に応じて授業中に指示する。

履修上の注意

履修者数制限あり。第1回目の授業に必ず出席すること。

履修できるのは、主に3年次の学生。当年度内での「論文指導演習A」「論文指導演習B」との重複履修は不可。

その他

LMSによりレポート課題を提出してもらうので、PC環境を整えておくこと。

講義コード	U360302101	科目ナンバリング	036B406
講義名	文献調査演習		
副題	卒業論文を提出しない学生にも開かれた授業		
英文科目名	Research and Documentation		
担当者名	CARTON, Martine		
単位	4	配当年次	学部 3年～4年
時間割	通年 火曜日 1時限 西2-202		

授業概要

卒業論文を提出する学生だけでなく、卒業論文として提出せずに3-4年生の研究を論文としてまとめたいと思う学生も歓迎します。先生と一緒に研究のテーマの設定、論文か発表の構成法、そのために必要な情報を収集する方法、特にフランス語の文献を探す方法を学びます。最後に、論文または発表のレジュメをつくります。

到達目標

研究のテーマを決めること、インターネットで情報(本や記事やビデオやウェブサイトなど)を収集すること、論文の構想をまとめること、レジュメをつくること、最後にクラスでパワーポイントで発表すること。

授業内容

実施回	内容
第1回	授業の説明と参加する学生による自分のテーマの紹介 Choix du sujet 1 de recherches : フランスまたはフランス語に関連する研究対象を絞るためのブレインストーミングを行います。何の研究をしたいのか、何に興味があるのかを手掛かりにします。
第2回	Sujet 1 : Comment préparer un dossier sur le sujet
第3回	Préparer le plan du dossier
第4回	Préparer le plan du dossier
第5回	Rechercher des informations (sites Internet, livres, articles) sur le sujet 1
第6回	Rechercher des informations (sites Internet, livres, articles) sur le sujet 1
第7回	Rédaction par groupe ou individuellement du dossier sur le sujet 1
第8回	Rédaction par groupe ou individuellement du dossier sur le sujet 1
第9回	Rédaction par groupe ou individuellement du dossier sur le sujet 1
第10回	Rédaction par groupe ou individuellement du dossier sur le sujet 1
第11回	Rédaction par groupe du dossier sur le sujet 1
第12回	Présentation des reportages par les étudiants
第13回	Présentation des reportages par les étudiants
第14回	授業の説明と参加する学生による自分のテーマの紹介 Choix du sujet 2 de recherches : フランスまたはフランス語に関連する研究対象を絞るためのブレインストーミングを行います。何の研究をしたいのか、何に興味があるのかを手掛かりにします。
第15回	Sujet 2 : Comment préparer un dossier sur le sujet
第16回	Préparer le plan du dossier
第17回	Préparer le plan du dossier
第18回	Rechercher des informations (sites Internet, livres, articles) sur le sujet 2
第19回	Rechercher des informations (sites Internet, livres, articles) sur le sujet 2
第20回	Rechercher des informations (sites Internet, livres, articles) sur le sujet 2
第21回	Rédaction par groupe ou individuellement du dossier sur le sujet 2
第22回	Rédaction par groupe ou individuellement du dossier sur le sujet 2
第23回	Rédaction par groupe ou individuellement du dossier sur le sujet 2
第24回	Présentation des reportages par les étudiants
第25回	Présentation des reportages par les étudiants
第26回	Présentation des reportages par les étudiants

授業方法

Les étudiants travailleront individuellement ou en groupe.

使用言語

日本語・英語以外

準備学習(予習・復習)

準備学習(予習・復習)

Préparation de 20-30 minutes avant chaque cours.

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	50 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	
その他(備考欄を参照)		

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

Les exercices seront corrigés et rendus aux étudiants, les présentations orales seront corrigées et notées à l'oral.

履修上の注意

履修者数制限あり。第1回目の授業に出席のこと。

講義コード	U360303101	科目ナンバリング	036B104
講義名	フランス語実習A		
英文科目名	Practice in the French language		
担当者名	大野 麻奈子		
単位	4	配当年次	学部 3年～4年
時間割	通年 木曜日 3時限 中央-405		

授業概要

TCFおよびDELFのB1相当のフランス語力をつけることを目指す授業。語彙力、構文力を伸ばし、かつ聞き取り能力をつけ、自分からもフランス語で発信できるようにするためには、まずはフランス語の文章を正しい発音でインプットすることが重要。毎回の授業では主に、
 1) 文学作品の抜粋を暗誦、また、日本語からフランス語の文章に復元する演習。
 2) 教科書として『Inspire 2』を使用し、文法事項、発音などに留意しながらフランス語の文章に慣れ親しみ、読解・聞き取り問題演習を行う。
 時にフランスのテレビニュースの抜粋を使用した演習も行う。文化的理解を深めるために、年に2-3回、映像作品の視聴も予定している。

到達目標

TCF、DELFのレベルとしてはB1相当の能力をつけることを目指す(仏検では準2級または2級程度)。実践的な場面で使われているフランス語を理解するために、文化的な理解を深めつつ語彙を増やし、構文力をつける。

授業内容

実施回	内容
第1回	オリエンテーション: フランス語の各種試験(仏検、TCF、DELF・DALF)の説明、教材・自習用サイトなどの説明
第2回	テキスト1の暗誦・仏文復元/ Inspire 2 L1 /F2
第3回	テキスト2の暗誦・仏文復元/ Inspire 2 L2 /F2
第4回	テキスト3の暗誦・仏文復元 / Inspire 2 L3 /DELF聞き取り問題演習
第5回	テキスト4の暗誦・仏文復元 / Inspire 2 L4 /DELF読解問題演習
第6回	テキスト5の暗誦・仏文復元 / Inspire 2 L13
第7回	テキスト6の暗誦・仏文復元/ Inspire 2 L14
第8回	テキスト7の暗誦・仏文復元 / Inspire 2 L15 /TCF聞き取り問題演習
第9回	テキスト8の暗誦・仏文復元 / Inspire 2 L16 /TCF読解問題演習
第10回	テキスト9の暗誦・仏文復元 / Inspire 2 L17
第11回	テキスト10の暗誦・仏文復元 / Inspire 2 L22
第12回	映像作品の視聴・聞き取り演習 / Inspire 2 L23
第13回	まとめ
第14回	テキスト11の暗誦・仏文復元 / Inspire 2 L24 /F2
第15回	テキスト12の暗誦・仏文復元 / Inspire 2 L25 /F2
第16回	テキスト13の暗誦・仏文復元 / Inspire 2 L26 /TCF文法問題演習
第17回	テキスト14の暗誦・仏文復元 / Inspire 2 L27 /TCF読解問題演習
第18回	テキスト15の暗誦・仏文復元 / Inspire 2 L28 /TCF聞き取り問題演習
第19回	テキスト16の暗誦・仏文復元/ Inspire 2 L29
第20回	テキスト17の暗誦・仏文復元 / Inspire 2 L30
第21回	テキスト18の暗誦・仏文復元 / Inspire 2 L31
第22回	テキスト19の暗誦・仏文復元 / Inspire 2 L32
第23回	テキスト20の暗誦・仏文復元
第24回	映像作品の視聴・聞き取り演習
第25回	まとめ①
第26回	まとめ②

授業計画コメント

文学作品抜粋については、文法的には初級レベルなので訳読や文法解説は基本的には行わない。しかしランダムに文意、文法事項などを質問することもある。また、授業進度、教科書で取り組む箇所、TCF、DELF問題演習およびF2(フランスのテレビニュース)の取り組みはクラスの様子を見ながら修正・変更を加えることが予想される。

授業方法

演習型の授業。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

文学作品抜粋については最初にテキストと音源を渡す。音源については「かけ流し」で良いので日常的に耳に入れるようにしてほしい。Inspire 2については視聴覚資料(音源とビデオ)のサイトがあるので、予習復習に大いに活用すること。準備時間は1時間半ほど。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)	50 %	
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	小テストの結果、外部試験の試験の結果なども含まれる。
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

上の数字はあくまでも目安。TCFをはじめとしたフランス語の外部試験の受験は絶対的な義務ではないが、強く勧める。また、受験した場合は評価のポイントとなる。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

小テスト及び第1学期末の試験については返却の際に説明をする。

教科書

Inspire 2, Jean-Thierry LE BOUGNEC / Marie-José LOPES, Hachette, 2020, 978-2-01-513579-3

履修上の注意

履修者数制限あり。
第1回目の授業に出席のこと。

講義コード	U360303102	科目ナンバリング	036B104
講義名	フランス語実習B		
英文科目名	Practice in the French language		
担当者名	一丸 禎子		
単位	4	配当年次	学部 3年～4年
時間割	通年 木曜日 3時限 中央-503		

授業概要

フランス語を耳で聞いて、目で読んで理解する力をつけるために、いくつかの方法を組み合わせで展開します。フランスで作成された最新の教科書『Inspire 2』(DELF/DALFのA2に相当するレベル)の聴解を柱とし、『Le Petit Prince』(邦題『星の王子様』)の暗唱、ディクテ、France2などのニュース番組の聴解・読解により、フランス語の実践的な運用能力を高めます。また、同時に映画などの素材を使いフランス社会の「今」と「今」の背後にある文化・歴史・社会のコンテキストについても理解を深めます。

到達目標

具体的には欧州語学検定協会 ALTE が定めた国際規格に準拠し、フランス国民教育省が認定した公式フランス語資格 DELF/DALFにおけるA2の実力を獲得し、そのうえのB1,B2を目指します。国内の仏検では準2級、2級を目指します。

授業内容

実施回	内容
第1回	イントロダクション/教科書『Inspire2』の使い方と授業の進め方/DELF/DALF、仏検の解説
第2回	『Le Petit Prince』のテキストの紹介と暗唱の仕方について/France2の使い方について
第3回	『Le Petit Prince』/ディクテ/『Inspire2』L1
第4回	『Le Petit Prince』/France2/『Inspire2』L1
第5回	『Le Petit Prince』/ディクテ/『Inspire2』L2
第6回	『Le Petit Prince』/France2/『Inspire2』L2
第7回	『Le Petit Prince』/ディクテ/『Inspire2』L3
第8回	『Le Petit Prince』/France2/『Inspire2』L3
第9回	『Le Petit Prince』/ディクテ/『Inspire2』L4
第10回	『Le Petit Prince』/France2/『Inspire2』L4
第11回	『Le Petit Prince』/ディクテ/『Inspire2』L5
第12回	『Le Petit Prince』/France2/『Inspire2』L5
第13回	前期のまとめと理解度の確認
第14回	『Le Petit Prince』/ディクテ/『Inspire2』L6
第15回	『Le Petit Prince』/France2/『Inspire2』L6
第16回	『Le Petit Prince』/ディクテ/『Inspire2』L7
第17回	『Le Petit Prince』/France2/『Inspire2』L7
第18回	『Le Petit Prince』/ディクテ/『Inspire2』L8
第19回	『Le Petit Prince』/France2/『Inspire2』L8
第20回	『Le Petit Prince』/ディクテ/『Inspire2』L9
第21回	『Le Petit Prince』/France2/『Inspire2』L9
第22回	『Le Petit Prince』/ディクテ/『Inspire2』L10
第23回	『Le Petit Prince』/France2/『Inspire2』L10
第24回	DELF/DALFの模擬テスト
第25回	『Le Petit Prince』の暗唱テスト
第26回	全体のまとめと理解度の確認

授業計画コメント

このほかに授業では、フランスの文化、社会、歴史を理解するために映画を使います。それは教科書のテーマ、France2などニュースになっている時事問題に関連して選びます。

授業方法

演習形式

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

授業の際に提示された予習範囲は確実に準備しましょう(およその準備時間は2時間とします)。復習は、各自、授業で学習したことを反復し、疑問点は整理して、つぎの授業の時に質問しましょう。また、動詞の活用、語彙の暗記、音読に関しては、指示がなくても、毎日続けられるように習慣化しましょう。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)	50 %	
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

試験はディクテ、暗唱、読解などを中心に構成されます。平常点においては、授業への積極的な取り組み、すぐれた質問内容、音読の習熟度、授業中のディクテの正確さなどを総合的に判断します。また、自主的に受けた学外試験(DELFDALF、仏検)の結果も評価に加えますので申告してください。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

教室およびMoodle

教科書

Inspire 2, Jean-Thierry LE BOUGNEC他, Hachette, 初, 2020, 978-2-01-513579-3

参考文献

フランス語ホームステイライブ 中級からのコミュニケーション, 一丸禎子/Patrick REBOLLAR, 三修社, 初, 2011, 978-4-384-05666-2 C1085

コフレ フランス語基礎単語集, 杉山香織他, 朝日出版社, 初, 2019, 978-4-255-35301-2

履修上の注意

履修者数制限あり。
第1回の授業に出席のこと。

その他

語学習得は教室の105分だけでは十分に効果を発揮できません。練習を積み重ねる必要があります。読解する時間がない場合でも、音読は毎日欠かさないようにしましょう。

講義コード	U360303103	科目ナンバリング	036B104
講義名	フランス語実習C		
英文科目名	Practice in the French language		
担当者名	川口 覚子		
単位	4	配当年次	学部 3年～4年
時間割	通年 木曜日 2時限 西1-105		

授業概要

すでにフランス語の初級文法、読解の基礎を習得し終えた学生を対象に、習得した知識を総合的にのばしていくための練習をおこなっていきます。

到達目標

フランス語圏における生活と文化の知識を学びながら、フランス語をより身近なものにします。
TCF、DELFFのレベルとしてはB1相当の能力をつけることを目指します(仏検では準2級または2級程度)。

授業内容

実施回	内容
第1回	ガイダンス 授業方法の説明:下記の①～③の解説
第2回	①発音規則・音読・暗誦 ②語彙・表現 ③練習問題(文法・読解・ディクテ・ヒヤリング)
第3回	①発音規則・音読・暗誦 ②語彙・表現 ③練習問題(文法・読解・ディクテ・ヒヤリング)
第4回	①発音規則・音読・暗誦 ②語彙・表現 ③練習問題(文法・読解・ディクテ・ヒヤリング)
第5回	①発音規則・音読・暗誦 ②語彙・表現 ③練習問題(文法・読解・ディクテ・ヒヤリング)
第6回	①発音規則・音読・暗誦 ②語彙・表現 ③練習問題(文法・読解・ディクテ・ヒヤリング)
第7回	①発音規則・音読・暗誦 ②語彙・表現 ③練習問題(文法・読解・ディクテ・ヒヤリング)
第8回	①発音規則・音読・暗誦 ②語彙・表現 ③練習問題(文法・読解・ディクテ・ヒヤリング)
第9回	①発音規則・音読・暗誦 ②語彙・表現 ③練習問題(文法・読解・ディクテ・ヒヤリング)
第10回	①発音規則・音読・暗誦 ②語彙・表現 ③練習問題(文法・読解・ディクテ・ヒヤリング)
第11回	①発音規則・音読・暗誦 ②語彙・表現 ③練習問題(文法・読解・ディクテ・ヒヤリング)
第12回	①発音規則・音読・暗誦 ②語彙・表現 ③練習問題(文法・読解・ディクテ・ヒヤリング)
第13回	理解度の確認
第14回	①発音規則・音読・暗誦 ②語彙・表現 ③練習問題(文法・読解・ディクテ・ヒヤリング)
第15回	①発音規則・音読・暗誦 ②語彙・表現 ③練習問題(文法・読解・ディクテ・ヒヤリング)
第16回	①発音規則・音読・暗誦 ②語彙・表現 ③練習問題(文法・読解・ディクテ・ヒヤリング)
第17回	①発音規則・音読・暗誦 ②語彙・表現 ③練習問題(文法・読解・ディクテ・ヒヤリング)
第18回	①発音規則・音読・暗誦 ②語彙・表現 ③練習問題(文法・読解・ディクテ・ヒヤリング)
第19回	①発音規則・音読・暗誦 ②語彙・表現 ③練習問題(文法・読解・ディクテ・ヒヤリング)
第20回	①発音規則・音読・暗誦 ②語彙・表現 ③練習問題(文法・読解・ディクテ・ヒヤリング)
第21回	①発音規則・音読・暗誦 ②語彙・表現 ③練習問題(文法・読解・ディクテ・ヒヤリング)
第22回	①発音規則・音読・暗誦 ②語彙・表現 ③練習問題(文法・読解・ディクテ・ヒヤリング)
第23回	①発音規則・音読・暗誦 ②語彙・表現 ③練習問題(文法・読解・ディクテ・ヒヤリング)
第24回	①発音規則・音読・暗誦 ②語彙・表現 ③練習問題(文法・読解・ディクテ・ヒヤリング)
第25回	①発音規則・音読・暗誦 ②語彙・表現 ③練習問題(文法・読解・ディクテ・ヒヤリング)
第26回	理解度の確認

授業計画コメント

上記の内容は目安であり、学生の理解度によって変わることがあります。さらに単語、文章を暗記しまとめて小テストを細かくやる予定です。その場合はあらかじめ告知し、評価配分に組み込みます。

授業方法

①発音規則の復習から文へ、さらに音読、暗誦へと繋げる。②教科書を使用し文法の復習をしつつ、シチュエーションごとの語彙、表現を覚える。③フランス語能力試験(TCF、DELFF、DALFなどの)の問題をとおして、ディクテ、ヒヤリングをする。この①～③を繰り返していきます。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

学習した語彙や表現を復習してください。課題が出る場合もあります。(音読ファイルを含む)TV5の動画をみて聞き取り、フランスの日常、表現を視覚的に学習してください。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	25%	
学年末試験(第2学期)	25%	
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50%	小テスト、音読などを含む
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

配分はあくまでも参考程度で、総合的に評価します。小テスト、ディクテ、音読などの課題提出も評価に含みます。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

課題、試験は、授業で答え合わせをし次につなげます。

教科書

場面で学ぶフランス語2 [三訂版],高橋百代、林宏和、セドリック・ヤヤウイ、ブリジット ホリ,三修社,2023,978-4-384-23214-1

教科書コメント

教科書は最新の版を購入してください。

履修上の注意

履修者数制限あり。第1回目の授業に必ず出席すること。